

Excel 業務効率化支援ツール

*E-Speedy*

*Compact*

(イースピーディ コンパクト)

*Ver 1.01*

操作手順書

A1 / R1C1 形式 両対応

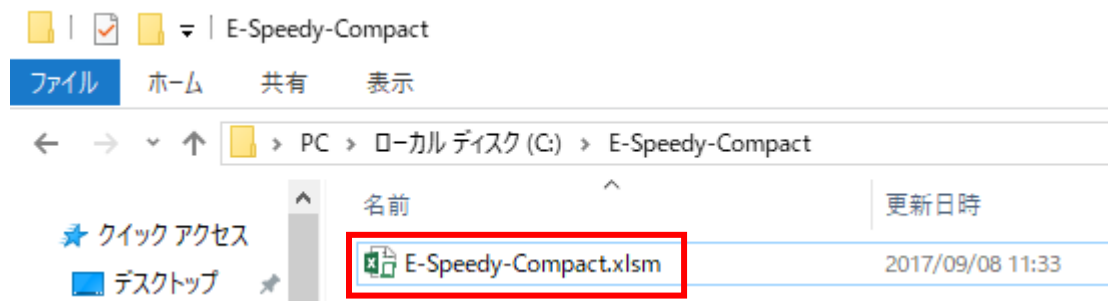
## 目次

1. ツールの起動と終了および補足と注意事項について .....	3
2. 「表の統合」機能の操作手順について .....	8
3. 「シートの統合」機能の操作手順について .....	24
4. 「セル範囲の比較」機能の操作手順について .....	35
5. 「簡易数式分析」機能の操作手順について .....	46
6. 「シート間 データ差し込み」機能の操作手順について .....	54
7. 「A1 / R1C1 参照切替」機能の操作手順について .....	68
8. 本マクロに関するご意見や不具合のご連絡先について .....	69
9. 修正及び更新履歴 .....	69
10. 本資料に関するご注意事項について .....	69

## 1. ツールの起動と終了および補足と注意事項について

### 1-1. ツールの起動

E-Speedy のプログラム本体は Excel で作成されたマクロで、「E-Speedy-Compact」というフォルダに格納されています。このフォルダを開くと、下図のように「E-Speedy-Compact.xlsm」というファイルがありますので、このファイルをダブルクリックしてください。



### 1-2. ツールの起動直後の状態

ツールが起動すると下図のように通常の Excel のブックが開かれ、E-Speedy の「メニュー」画面が表示されます。各ツールの起動はこの画面から行います。(ウィンドウの一部は省略して表示しています。)



### 1-3. ツールの終了

ツールを終了する場合、仕様上、右上の×ボタンは無効になっておりますのでお手数ですが下図の「メニュー」シートにある「ツールの終了」ボタンをクリックしてください。



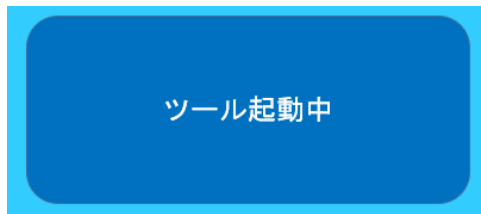
上図で「ツールの終了」ボタンをクリックすると、下図のようなメッセージが表示された後、画面が閉じ、ツールが終了します。

Please wait...

ツールの終了処理をしています。お待ちください...

#### 1-4. 任意のツール起動後のメニュー画面の状態

メニュー画面の任意のツール（例えば、表の統合等）をクリックして起動した時、メニュー画面は、下図のようになり、他のメニューは起動できなくなります。別のメニューを起動するときは、起動しているツール画面を一旦、終了してからご利用ください。



1-5. 任意のツールを起動すると、画面上には、下図のような閉じるボタンがありますので、もし、ツールを終了してメインメニューを表示したい場合は、マウス操作でこの「閉じる」ボタンをクリックしてください。



#### 1-6. サンプルデータについて

本操作手順書でご紹介している手順で利用したサンプルデータを添付しています。こちらのデータをお使い頂いて手順書通りに操作して頂くことで、本ツールのイメージがつかみやすくなります。

#### 1-7. 本ツールのご利用にあたっての注意事項について【重要】

- ・本ツールのプログラムファイルである「E-Speedy-Compact.xlsm」や「E-Speedy-Compact\_トラブルシューティング.xlsm」について、ファイル名を変更したり、他の Excel ファイルを上記のツールのプログラム名と同じ名前にしないでください。誤動作の原因となります。また、処理対象となるデータについて、トラブル防止のため、事前にバックアップをお取りください。
- ・ツールの各画面の内容について、再度、同じツールを実行した時に表示される画面状態は、前回操作時の状態を保持している場合と、保持しない場合があります。これはツールの仕様となりますので、あらかじめ、ご了承ください。
- ・プログラム実行時や実行中に「エラー番号：52」と表示された場合は、処理対象のファイルが存在するフォルダ(特にネットワークフォルダ)が見つからない場合が考えられますので、対象フォルダが正常に開けるかをご確認ください。

- ・本ツールは、Excel2013 以降において本ツールと排他的に起動されたブック(例：Alt キーを押しながら Excel を起動したブック等)を認識できません。排他的に起動されたブックは別インスタンスや別プロセスと言います(※1)。

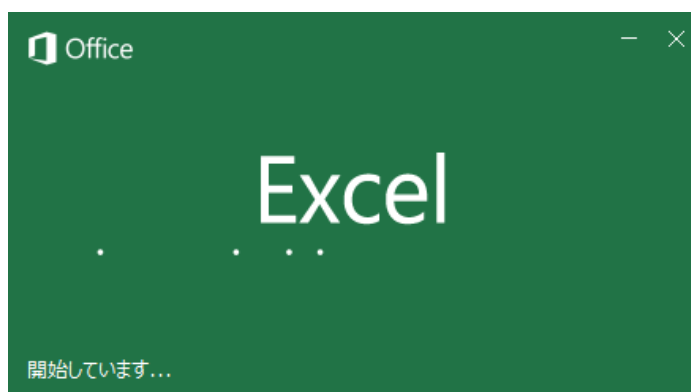
そのため、操作したいブック名などが画面に表示されない場合は、操作したい Excel ブックについて、保存していない場合は、一度保存して閉じて頂き、該当のファイルを本ツールのウィンドウにドラッグして開いてみてください。(※2)

次回からは、「本ツール」、「操作したい Excel ブック」の順にファイルをダブルクリックして開いてみてください。(※3)

上記の注意点は「セル範囲の比較」、「簡易数式分析」、「シート間 データ差し込み」の機能が該当します。

※1 について：

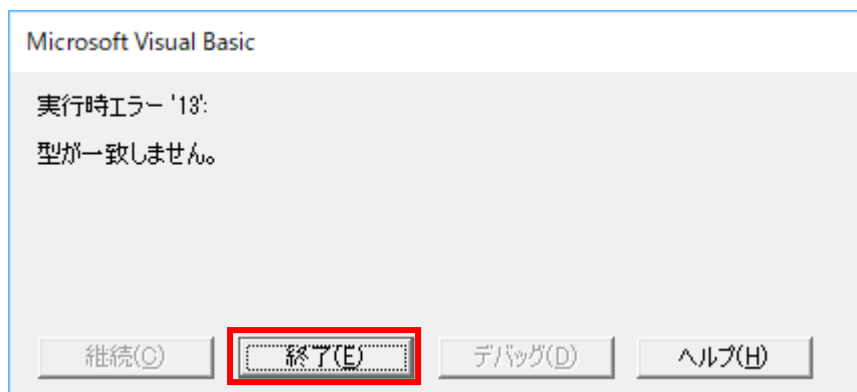
別インスタンスで起動とは、例えば既にツールが起動している状態で新規にブックを作成したり、他のファイルを開こうとした際に、下図のように Excel の起動画面が表示されてしまうようなことを言います。もし本ツールで操作したいファイルが本ツールと別インスタンスで起動してしまった場合は、上記(※2)の操作をお試しく下さい。



※3 について：

通常は、この方法で「本ツール」と「操作したい Excel ブック」は同じインスタンスで起動するはずですが、何らかの理由で、この方法でも「操作したい Excel ブック」が別インスタンスで起動してしまう場合は、上記(※2)の操作をお試しく下さい。

- ・本ツールは Excel2013(32bit/64bit)及び Excel2016(32bit/64bit)でのご利用を想定していますが、全ての環境での動作確認はとれておりませんので十分に動作確認を行ってください。
- ・本ツールは、ツールの処理実行中にエラーが発生した場合、メッセージを表示して安全に停止するように配慮しております。本ツールの開発段階では発生していませんが、万一、下図のような Excel のシステム側からのエラー画面が表示された場合は「終了」ボタンをクリックして頂き、その後、別冊の「E-Speedy-Compact トラブルシューティング.pdf」の「4. ツールを強制終了する」の操作を参考にツールを終了してください。また、大変お手数で恐縮ですがエラーが発生するパターンやその詳細について著作者までご連絡頂ければ幸いです。今後の参考とさせていただきます。



その他のケースとしまして、マクロを開発するための「開発」画面 (VBE といいます)を開いた状態で本ツールの処理を実行中に ESC キーを押すと、Excel の仕様により上図のようなエラー画面が表示され、処理が停止してしまうことがありますので開発画面を表示した状態での本ツールの運用はご遠慮ください。

- ・本ツールで下図のような進捗状況を表す画面(プログレスバーといいます)が表示されているときに基本的には他の操作を行わないでください。本ツールは下図のような連続処理を実行中に他の操作をしても問題ないように配慮しておりますが、データコピーなど他のアプリケーションと共有のメモリを利用するような処理ではエラーが発生し動作がストップしたり、他の操作を行おうとしてもその操作が遅くなることがあります。お手数ですが、プログレスバー表示中は他の操作はご遠慮ください。

進捗状況 (ESCキーで中止できます。)



## 2.「表の統合」機能の操作手順について

同じ表のタイトルを持つ(同じ形式で同じ位置にある)表が複数のシートやファイルに分散していて、この表を1つにまとめたい場合、この「表の統合」機能を使うと便利です。  
下記以降でこの機能についての操作方法をご説明します。

2-1. E-Speedy のメニューから下図の「表の統合」ボタンをクリックします。



2-2. 画面を準備するため、下図のようなメッセージが表示されます。(少しお時間を頂きます。)

Please wait...

画面の準備をしています。お待ちください。30% 完了

2-3. 画面の準備が完了すると、下図のような「表の統合処理」の画面が表示されます。  
下図の画面に各種設定を行ってから、表の統合処理をスタートします。

表の統合処理

同一フォルダ内に存在する各ファイルの表を1つのシートに統合します。

【統合元ファイルが格納されているフォルダを指定】

参照

【表を統合するシートを指定】

☒ 共通シート名 ( , で複数指定可 )

☐ 左から数えたシート位置 ( , で複数指定可 )

☐ 全てのシート

番目

【実データ開始行番号】行目

【最終行判定列】列目

【統合する範囲】列目 ~ 列目

【連番列の新規作成】

☒ 不要 ☐ 要

【行の高さをコピー元に合わせる】

☒ 要 ☐ 不要 (高速)

【コピー終了後に列幅を調整する】

☒ 要 ☐ 不要

【ファイルのパスワード ( , で複数指定可 )】

【シートの保護パスワード ( , で複数指定可 )】

【コピー方法を指定】

☒ 値のみコピー

☐ 全てコピー

【エラー発生時の処理継続有無】

☒ コピー可能な表だけ統合する

☐ 処理を中止する

実行

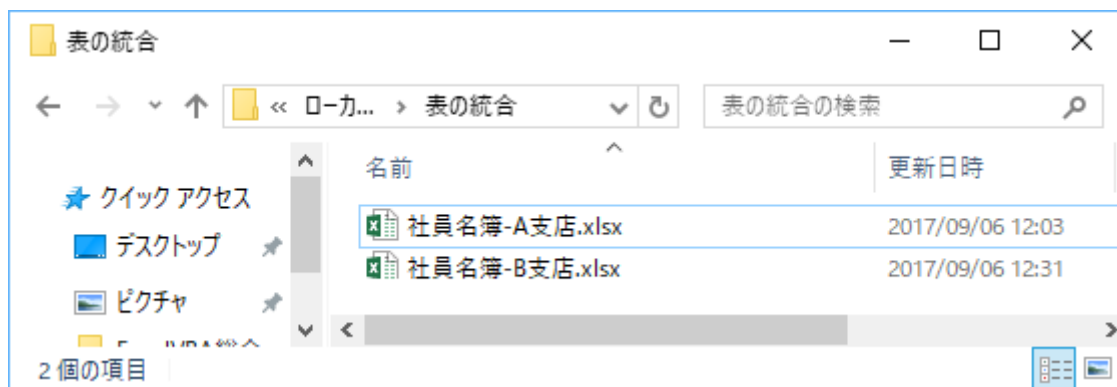
閉じる



2-4. 簡単な例題としまして、下図のように「表の統合」フォルダに格納された2つのファイル「社員名簿-A支店.xlsx」と「社員名簿-B支店.xlsx」のファイルのシートにあるそれぞれの社員名簿の表を統合して1つのファイル(1つの表)にする例を考えてみます。

【補足】

これ以降の手順でツール上で表に関する設定が必要となりますので、統合するファイルを1つ開いておいて頂くと設定しやすくなります。(統合処理の実行前には閉じて頂きます。)



「社員名簿-A支店.xlsx」のファイルを開いた状態

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7	6							
8	7							
9								

「社員名簿-B支店.xlsx」のファイルを開いた状態

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00003	清水 博之	男	44	神奈川県川崎市〇〇町7-3	042-***-****	
3	2	00007	須田 雅子	女	30	埼玉県所沢市△△町4-4	04-****-****	
4	3	00040	田島 昭雄	男	25	千葉県柏市□□町5-1	04-****-****	
5	4	00071	仁村 香	女	37	栃木県今市市〇〇町6-4	0288-**-****	
6	5	00201	矢島 勉	男	52	群馬県前橋市△△町9-5	027-***-****	
7	6							
8	7							
9								

## 2-5. 表の統合処理画面の各設定項目について

### 2-5-1. 統合元ファイルが格納されているフォルダを指定

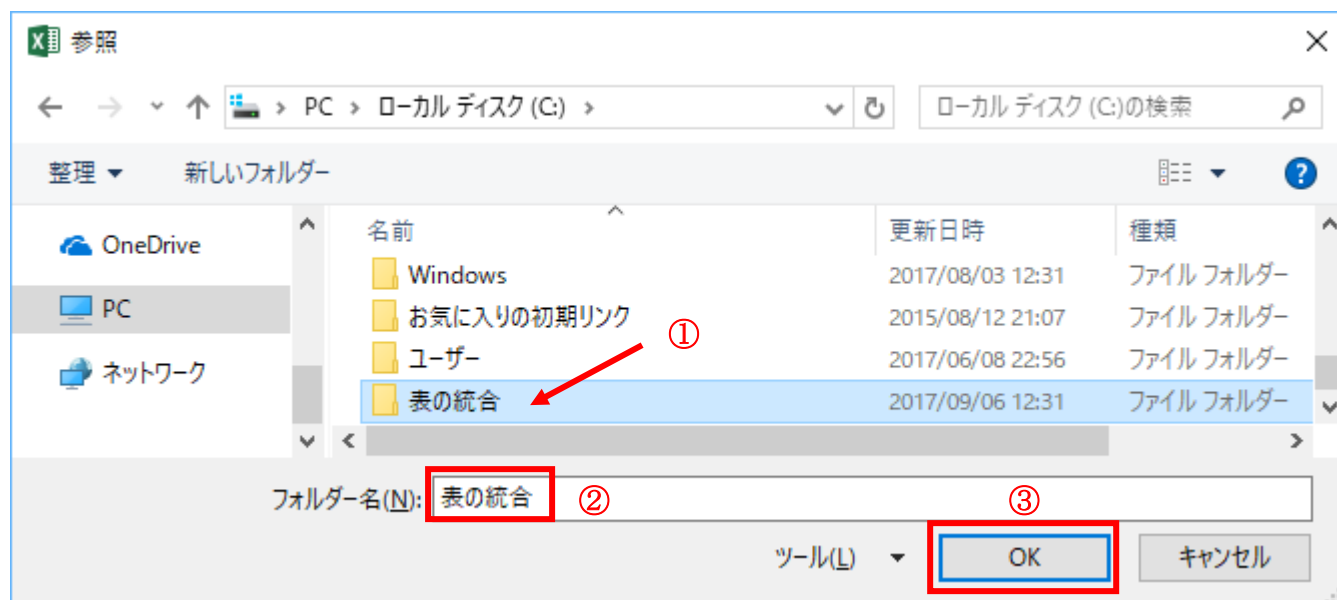
事前に統合したい表が存在する Excel ファイル(拡張子が.xls または.xlsx のファイル)を 1 つのフォルダにまとめておきます。このフォルダまでのパスを下図の空白の部分に設定します。通常は、右側にある「参照」ボタンをクリックしてファイルが格納されているフォルダを選択するとパスが自動で設定されますので便利です。また、本ツールは各表のタイトルが一致しているかどうかの判定は行いませんので、統合する必要のない表も統合されないように、下記のフォルダや手順 2-5-2. で指定するシートに統合する必要のないものが含まれていないかご注意の上、ご利用ください。

同一フォルダ内に存在する各ファイルのシートを1つのファイルに統合します。

【統合元ファイルが格納されているフォルダを指定】

参照

「参照」ボタンをクリックすると下図のようなフォルダ選択画面が開かれます。表の統合をしたいファイルが格納されているフォルダ探して頂き、そのフォルダをクリックして選択します。(①) (本例では、C ドライブ直下の「表の統合」フォルダの中に統合したいファイルが格納されていると仮定していますので、下図の「表の統合」のフォルダをクリックします。)



上図でフォルダー名の部分に統合したいファイルが格納されているフォルダ名が表示されていることを確認したら(②)「OK」ボタンをクリックしてください。(③)

本例では下図のようになりました。統合したいファイルが格納されているフォルダまでのパスが正しく設定されていることを確認してください。

【統合元ファイルが格納されているフォルダを指定】

C:\表の統合

参照

## 2-5-2. 表を統合するシートを指定

下図の設定は、各ファイルのシートの中で**どのシートの表を統合するか**を指定します。

【表を統合するシートを指定】

☒ 共通シート名（、で複数指定可）      ☐ 左から数えたシート位置（、で複数指定可）      ☐ 全てのシート

           番目

### ・共通シート名：

各ファイルで統合したい表が存在しているシート名が同じ場合、「共通シート名」にチェックして、**空白部にそのシート名を入力します。**

【補足】 1つのファイルに統合したいシートが複数ある場合、半角の「,」で区切って設定してください。  
この場合、「,」の前後にはスペースを含めずに入力してください。  
(ただし、シート名そのものにスペースを含む場合は除きます。)

【入力例】 Sheet1,Sheet2,Sheet3

【注意点】 複数の共通シートを設定した場合、その設定した順番で表の統合が行われます。

### ・左から数えたシート位置：

各ファイルで統合したい表が存在している左から数えたシートの位置が同じ場合、「左から数えたシート位置」にチェックして、**空白部にその番号を入力します。**  
本例の場合、各ファイルの統合したい表のシート名が「A 支店」「B 支店」ですので、前述の共通シート名は利用できないため、この項目を利用します。

【補足】 1つのファイルに統合したいシートが複数ある場合、半角の「,」で区切って設定してください。  
この場合、「,」の前後にはスペースを含めずに入力してください。

【入力例】 1,2,3

【注意点】 複数の共通シートを設定した場合、その設定した順番で表の統合が行われます。

### ・全てのシート：

統合したいファイルに存在するシート全てが同じ表形式で、その表をすべてまとめて1つのファイルに統合したい場合、「全てのシート」にチェックしてください。

本例では、各ファイルで統合したい表が左から1番目のシートにありますので、下図のように設定しました。

A支店   Sheet2   Sheet3      B支店   Sheet2   Sheet3

【表を統合するシートを指定】

☐ 共通シート名（、で複数指定可）      ☒ 左から数えたシート位置（、で複数指定可）      ☐ 全てのシート

           番目

### 2-5-3. 実データ開始行番号

下図の設定は、**表のタイトルを除く実際のデータが何行目から始まっているか**を数字で入力します。

例えば、本例の社員名簿は実際のデータは下図のように「2」行目から始まっているので「2」と入力します。

【実データ開始行番号】

行目

※本ツールでは実データ開始行番号より前の行はタイトル部とみなします。

また、このタイトル部は最初に読み込まれた表の情報が利用されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7	6							
8	7							
9								

A支店 Sheet2 Sheet3

最終行判定列

### 2-5-4. 最終行判定列

下図の設定は、**表のデータの部分において、必ずデータが存在する項目の列名、もしくは列番号**をプルダウンメニューから選択して指定します。

【最終行判定列】

列目

本例では社員番号のように空白になることがなく、必ずデータが存在する項目のことを指します。

この項目を指定することで、本ツールが各シートの最終行番号を特定することができます。

上図では「B」列目が該当します。他の項目でも必ずデータが存在する列があればその列を設定しても問題ございません。

【注意点】本例の社員名簿に「No.」の列があります。この列のように今後の追加のデータの入力を見越してあらかじめ余分に通し番号を振ってあるような表がありますが、このような列は最終行判定列に指定した場合、No.列の最後の行を表の最終行とみなすため、氏名などが空欄の行もコピーされてしまいますのでご注意ください。また最終行判定列と次ページの統合する範囲の開始列が異なる場合、実行時に念のため、確認メッセージが表示されますが、正しければ問題ございません。

## 2-5-5. 統合する範囲

下図の設定は、**表の何列目～何列目までを統合するか**をプルダウンメニューから選んで指定します。  
本例では、社員名簿の「社員番号」～「住所」を統合することになります。  
そのため、設定は下図のようにしました。

【統合する範囲】

B 列目 ～ F 列目

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7	6							
8	7							
9								

A支店 Sheet2 Sheet3

## 2-5-6. 連番列の新規作成

下図の設定は、統合された表の一番左の列に「1」から順に通し番号の連番列を作成するかどうかを指定します。  
標準の設定では「不要」が指定されています。本例ではこの設定で進みます。

【連番列の新規作成】

☒ 不要 ☐ 要

【注意点】連番列を作成した場合、その列に設定されるのは数字のみで、枠などの書式は設定されません。  
お手数ですが、必要に応じて統合表作成後に手動にて設定してください。

## 2-5-7. 行の高さをコピー元に合わせる

下図の設定は統合元となる各表の行の高さを統合先の表でも合わせるかどうかを指定します。  
標準では「要」に設定されています。また、この設定を「要」にした場合、最初に読み込まれた表の  
ファイルの表示スケールも統合表のファイルに適用されます。本例ではこの設定で進みます。

【行の高さをコピー元に合わせる】

☒ 要 ☐ 不要（高速）

## 2-5-8. コピー終了後に列幅を調整する

下図の設定はコピー終了後に統合後の表の各列の幅を調整するかを指定します。

標準では「要」が設定されています。本例ではこの設定で進みます。

「不要」に設定した場合、最初に読み込まれた表の列幅に合わせられます。

【コピー終了後に列幅を調整する】

☒ 要    ☐ 不要

## 2-5-9-1. ファイルのパスワード

統合したい表が存在しているファイルに読み取りパスワードが設定されている場合、下図の空白部にパスワードを入力します。ファイルごとに別々のパスワードが設定されているような場合は、半角の「,」で区切ってすべての候補を入力してください。(本例では入力しません。)

【ファイルのパスワード(,で複数指定可)】

【注意点】複数のパスワードを入力する場合、「,」の前後にはスペースを入れずに入力してください。  
(ただし、パスワードそのものの前後にスペースを含む場合は除きます。)

## 2-5-9-2. シートの保護パスワード

統合したい表が存在しているシートに「シートの保護パスワード」が設定されている場合で、その表にオートフィルタが設定されている場合、シートの保護の設定によってはオートフィルタを解除できず、表のデータを統合できません。そのため、このケースでは特にシートの保護パスワードの入力は必須となります。また、パスワードが複数ある場合は、上記の空白部に半角の「,」で区切ってすべての候補を入力してください。  
(本例では入力しません。)

【シートの保護パスワード(,で複数指定可)】

【注意点】複数のパスワードを入力する場合、「,」の前後にはスペースを入れずに入力してください。  
(ただし、パスワードそのものの前後にスペースを含む場合は除きます。)

## 2-5-10. コピー方法を指定

下記の設定は、表のデータのコピー方法を指定します。用途に応じてご選択ください。

また、下記に記載の注意点に十分ご注意の上、設定をお願い致します。

### 【コピー方法を指定】

☐ 値のみコピー ☒ 全てコピー

#### ・値のみコピー：

統合元となる表から手動で表の領域を選択して「コピー」→「形式を選択して貼り付け」で「値」を選んだときと同じ同じ動きで表を統合していきます。(表の罫線や数式等はコピーされません。)

また、結合セルがある場合、値が入力されている主たるセルのみ統合表のセルにコピーされますのでご注意ください。

#### ・全てコピー

統合元となる表から手動で表の領域を選択して「コピー」→「形式を選択して貼り付け」で「すべて」を選んだときと同じ同じ動きで表を統合していきます。数式や罫線などの書式もコピーされます。

本例ではこの設定で進みます。

### 【コピー方法を指定についての補足】

本ツールは統合元となる表から新規に作成される統合表にデータをコピーする際にクリップボードと呼ばれるメモリーを経由してコピーします。このメモリーは他のソフトと共用のため、メモリーの使用が競合した場合、エラーが起きないとは限りません。そこで、本ツールでは、統合元のデータとデータコピー後の統合表のデータの比較処理を行い、信頼性を確保するとともに、エラー発生時は内部にてリトライし、複数回失敗した場合はユーザに通知して再実行を促す仕組みになっています。

### 【コピー方法を指定の全般の注意点その1】

統合元の表のセルの中に別のファイルを参照するような式(外部参照やリモート参照等)を含むファイルを開く場合、本ツールでは外部参照やリモート参照を更新しない設定でファイルを開きますが、例えば、「全てコピー」を選択している場合で外部参照を含むセル場合が参照先から値が取得できた場合は、作成される統合表上ではその取得した値が反映されます。

「全てコピー」オプションに限らず、外部参照やリモート参照を含むファイルの場合、十分ご検証の上、ご利用ください。

### 【コピー方法を指定の全般の注意点その2】

連番列の新規作成や表の切り取り(表全体ではなく列を限定して統合した場合)による統合前の表からの表の列数の増減や、統合表作成処理時の表のデータの縦方向の連結により(これは通常の動きです)、数式を含む表を統合する場合は、数式の参照位置の変化、参照先の消滅、セル結合を含む表を統合する場合は、このセル結合の値の消滅が発生する場合がありますので、十分検証の上、ご利用ください。

上記の注意点を確認するために、コピー方法を指定の箇所「全てコピー」を選択した場合で次のページのようなケースを考えてみます。



下図のような A 支店、B 支店の各社員の「未来の年齢」を計算する社員表があるとします。

「社員名簿・A 支店.xlsx」の表の状態

F5						<b>=E5+\$E\$2</b>
	A	B	C	D	E	F
1						
2	加算する年齢				10	歳
3						
4	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	10年後の年齢
5	1	00001	新井 隆	男	10	20
6	2	00010	小田 広子	女	23	33
7	3	00033	加藤 秀幸	男	56	66
8	4	00056	小島 洋子	女	34	44
9	5	00101	佐藤 雄二	男	22	32
10						

未来の年齢 Sheet2 Sheet3 (+)

F5 セルに 10 年後の年齢を計算する数式が設定されており F6～F9 セルにも同様の数式が設定されています。

A 支店と B 支店ともに F 列に同じ数式が設定されていますが、加算する年齢が異なる点に注目してください。

「社員名簿・B 支店.xlsx」の表の状態

F5						<b>=E5+\$E\$2</b>
	A	B	C	D	E	F
1						
2	加算する年齢				20	歳
3						
4	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	20年後の年齢
5	1	00003	清水 博之	男	44	64
6	2	00007	須田 雅子	女	30	50
7	3	00040	田島 昭雄	男	25	45
8	4	00071	仁村 香	女	37	57
9	5	00201	矢島 勉	男	52	72
10						

未来の年齢 Sheet2 Sheet3 (+)

F5 セルに 20 年後の年齢を計算する数式が設定されており F6～F9 セルにも同様の数式が設定されています。



例 1) 表の統合の設定を下図のように設定して P16 の 2 つの表を統合したとします。

【実データ開始行番号】 【最終行判定列】 【統合する範囲】

5 行目 A 列目 A 列目 ~ F 列目

「全てコピー」の設定で統合した場合の統合表の状態は下図のようになります。

F10						=E10+\$E\$2
	A	B	C	D	E	F
1						
2		加算する年齢			10	歳
3						
4	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	10年後の年齢
5	1	00001	新井 隆	男	10	20
6	2	00010	小田 広子	女	23	33
7	3	00033	加藤 秀幸	男	56	66
8	4	00056	小島 洋子	女	34	44
9	5	00101	佐藤 雄二	男	22	32
10	1	00003	清水 博之	男	44	54
11	2	00007	須田 雅子	女	30	40
12	3	00040	田島 昭雄	男	25	35
13	4	00071	仁村 香	女	37	47
14	5	00201	矢島 勉	男	52	62

実データ開始番号を 5 行目と設定しているため、1 行目から 4 行目までは表のタイトル部とみなされます。表のタイトル部は最初に読み込まれた「社員名簿-A 支店.xlsx」の情報が利用されます。

左図の統合表の F10 セルに注目すると、このセルは「社員名簿-B 支店.xlsx」から統合された表ですが、統合前と同様、数式になっており(= E10 + \$E\$2)、相対参照(E10)は統合前の E5 から統合表に合わせる形で修正されており、絶対参照(\$E\$2)は統合前と同じ状態になっていることがわかります。このため、加算する年齢も統合表(統合後の表)の値(10)が利用されるため、統合前の表と異なる結果になっています。

今回ご紹介した 例 1) の動きからコピー方法を指定で「全てコピー」を選択した場合で、数式を含む場合、下記の動きになっていることがわかります。

- ・絶対参照の部分はそのままコピーされるので、統合前の各表で絶対参照の部分の値が異なる場合は統合前の表の値と変わってしまう。
- ・相対参照の部分は統合表での位置に合わせた形で修正されており、統合前の表と同じセルが参照されている。

例 2) 今度は、表の統合の設定を下図のように設定して P16 の 2 つの表を統合したとします。

【実データ開始行番号】 【最終行判定列】 【統合する範囲】

5 行目 B 列目 B 列目 ~ F 列目

「全てコピー」の設定で統合した場合の統合表の状態は下図のようになります。

E10					=D10+\$E\$2
	A	B	C	D	E
1					
2				10	歳
3					
4	社員番号	氏名	性別	年齢	10年後の年齢
5	00001	新井 隆	男	10	#VALUE!
6	00010	小田 広子	女	23	#VALUE!
7	00033	加藤 秀幸	男	56	#VALUE!
8	00056	小島 洋子	女	34	#VALUE!
9	00101	佐藤 雄二	男	22	#VALUE!
10	00003	清水 博之	男	14	#VALUE!
11	00007	須田 雅子	女	30	#VALUE!
12	00040	田島 昭雄	男	25	#VALUE!
13	00071	仁村 香	女	37	#VALUE!
14	00201	矢島 勉	男	52	#VALUE!
15					

統合前の表は「加算する年齢」の文字がセル結合で A2 セル扱いでしたが、表の列数が 1 つ減少したことで (A 列を統合範囲から外したことで) セル結合が消滅し値も消えてしまいました。

左図の統合表の F10 セルに注目すると、このセルは「社員名簿-B 支店.xlsx」から統合された表ですが、統合前と同様、数式になっており (= D10 + \$E\$2)、相対参照(D10)は統合前の E5 から統合表に合わせる形で修正されており、絶対参照(\$E\$2)は統合前と同じ状態になっていることがわかります。但し、表の列数が 1 つ減少したことで \$E\$2 の値が数値ではなく「歳」となり、数式が #VALUE! のエラーとなってしまいました。

今回ご紹介した 例 2) の動きからコピー方法を指定で「全てコピー」を選択した場合で、数式を含む場合下記の動きになっていることがわかります。

- ・絶対参照の部分はそのままコピーされるので、列数の増減が発生する形で表を統合して統合表で絶対参照の部分が参照する値が変わってしまう場合は予期せぬ値になったりエラーが発生してしまうことがある。
- ・相対参照の部分は例 1 の場合と同様、統合表での位置に合わせた形で修正されており、統合前の表と同じセルが参照されている。
- ・統合前の表の列を限定して統合するとセル結合が解除されて値が消滅することがある。これはコピー方法を指定を「値のみコピー」にした場合も同様である。

例 1 と例 2 から表の統合を行う場合、下記の点に注意する必要があることがわかります。

- ・統合前の表は各セルが値のみになっていることが望ましく、もし数式を含む場合は相対参照のみの式が望ましい。また絶対参照を含む場合は、統合表(統合後の表)上での参照先の値の変化に注意する必要がある。
  - ・相対参照、絶対参照ともに表の行数や列数の増減による参照先の変化や参照先の消滅に注意する。合わせて、セル結合の消滅にも注意する。
- 上記の点にご注意頂き、特に数式を含む表を統合する場合は、必ずご検証の上ご利用ください。

## 2-5-11. エラー発生時の処理継続有無

下記の設定は、処理中にエラーが発生した場合の対処法を設定します。

### 【エラー発生時の処理継続有無】

☒ コピー可能な表だけ統合する      ☐ 処理を中止する

#### ・コピー可能な表だけ統合する

処理中にファイルが開けなかったり、コピーできないシートなどがあった場合に処理をスキップして、データのコピーが可能な表だけ統合していきます。

エラーが発生した場合でも処理は中断せず、統合処理が終わった後に、エラー箇所を表示します。但し、予期せぬエラーが発生した場合は、処理が中止されることもありますのでご了承ください。

#### ・処理を中止する

処理中にファイルが開けなかったり、コピーできないシートなどがあった場合にその時点で処理を中止し、エラー内容を表示します。但し、シートのデータがないだけの場合は終了せずに処理を継続します

## 2-6. 表の統合処理の実行

表の統合処理の画面での設定が終わりましたら、下図の「実行」ボタンをクリックします。

※事前に開いて確認したファイルは閉じておきます。(閉じないと実行時にエラーになります。)

また、他のファイルが開いていないにも関わらず警告がでる場合は、一旦ツールを終了してみてください。開いたままのファイルが表示されることがあります。



【注意点】「実行」ボタンクリック後の処理について下記の注意点がありますのでご確認ください。

- ・画面の設定に不備があるとエラーになりますので、設定を再度ご確認ください。
- ・指定したフォルダの名前の順、指定したシートの順に表が統合(連結)処理されていきます。
- ・処理中に読み込まれるファイルは「読み取り専用」で開かれますので、内容は変更されません。
- ・統合対象のファイルの中に起動時に実行されるようなマクロを含むファイルがある場合、処理が停止する可能性があります。マクロを含むファイルの取り扱いには十分ご注意ください。
- ・オートフィルタが設定された表は、オートフィルタが解除された後に表が統合されます。
- ・途中で処理を中止したい場合、ESC キーを押し続けてしてください。

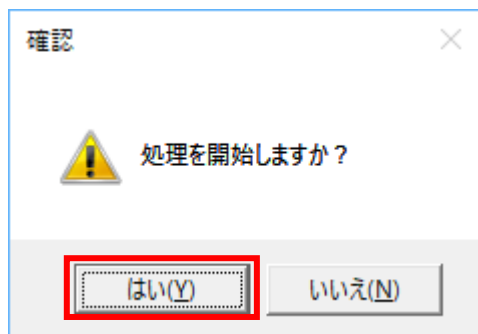
この操作により処理が中止され、その後はメニュー画面からの操作となります。

但し、処理途中に一度でも **ESC** キーを押した場合、仮に中断処理が間に合わず

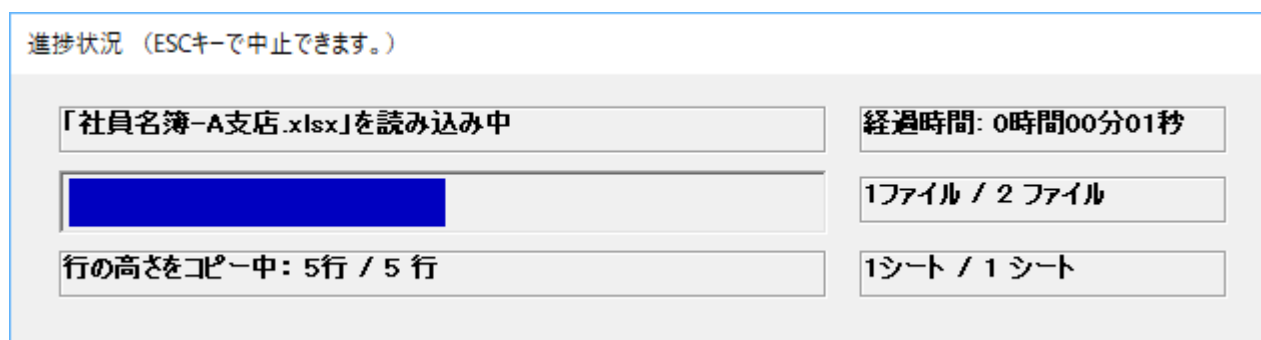
最後まで処理が終了したとしても、作成された統合表のデータの内容は保証されません。

必要に応じて再度実行をお願いいたします。

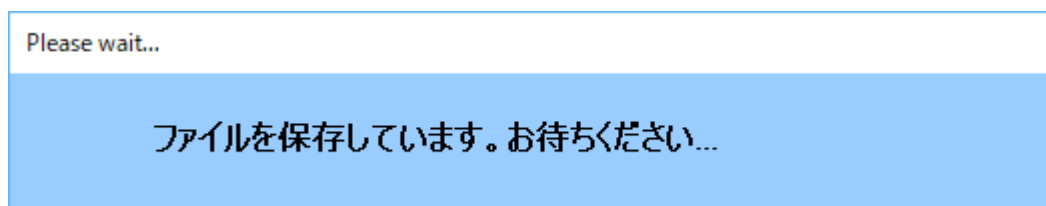
2-6-1. 実行ボタンをクリックすると下図の画面が表示されますのでよろしければ「はい」をクリックしてください。



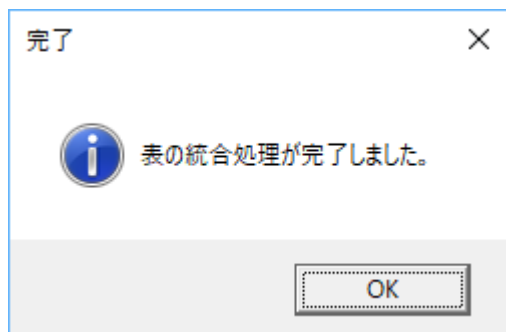
2-6-2. 処理が始まると、下図のような進捗状況が表示されます。



2-6-3. 処理の終了直前にファイルが保存されますので、下図のような画面が表示されます。



2-6-4. 表の統合処理が完了すると下図の画面が表示されますので「OK」をクリックしてください。



2-6-5. 処理が完了すると画面上に下図のように統合された表が表示されます。  
 作成される統合表のファイルとシート名の形式は暫定的に以下ようになります。  
必要に応じて、適切なファイル名やシート名にリネームしてください。

**ファイル名：** [ 最初に読み込んだファイル名(統合表) ]\_ [ 本日の日付 ]\_ [ 作成時刻 ].xlsx

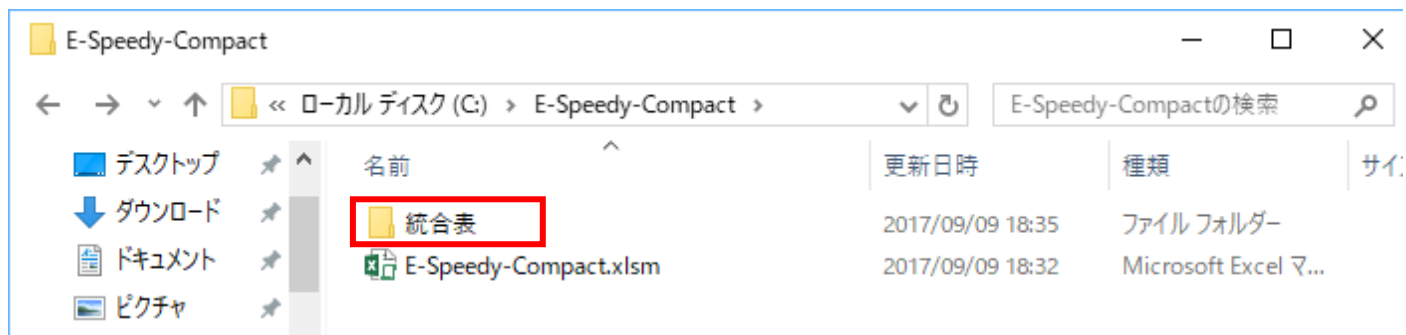
**シート名：** [ 統合表 ]

【補足】 下図のウィンドウを移動するときは、赤枠部のファイル名の部分をクリックしてドラッグすれば移動できます。

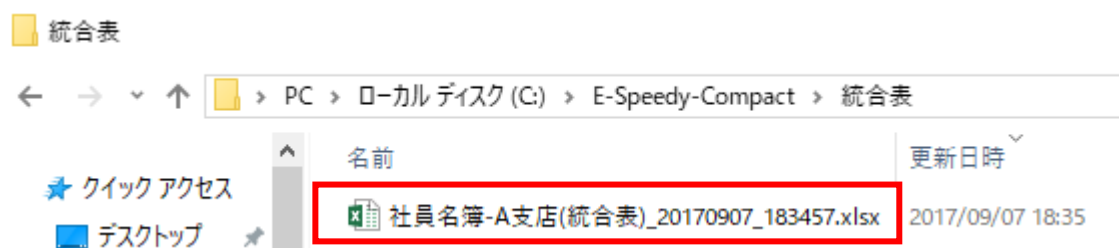
	A	B	C	D	E	F
1	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	
2	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	A支店の社員名簿
3	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	
4	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	
5	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	
6	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	
7	00003	清水 博之	男	44	神奈川県川崎市〇〇町7-3	B支店の社員名簿
8	00007	須田 雅子	女	30	埼玉県所沢市△△町4-4	
9	00040	田島 昭雄	男	25	千葉県柏市□□町5-1	
10	00071	仁村 香	女	37	栃木県今市市〇〇町6-4	
11	00201	矢島 勉	男	52	群馬県前橋市△△町9-5	

次ページに続きます.....

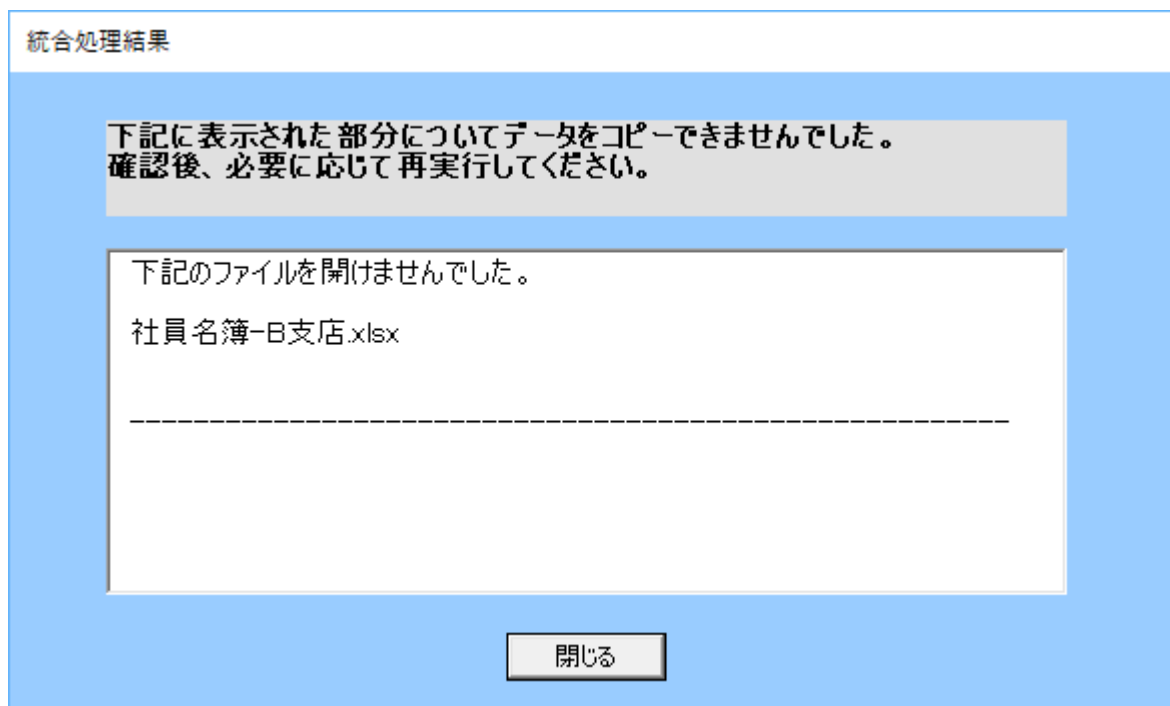
また、下図のようにツールが格納された「E-Speedy-Compact」フォルダの中に、「統合表」というフォルダが作成され、このフォルダの中に統合表のファイルが保存されています。



下図は統合表フォルダを開いたときの状態になります。

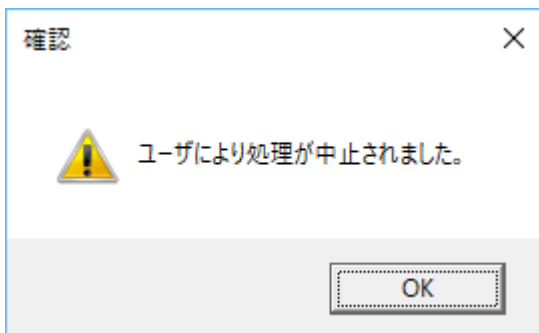


【補足 1】表の統合処理の設定画面で、「エラー発生時の処理継続有無」を「コピー可能な表だけ統合する」に設定にして実行した場合で、処理途中にファイルが開けないなどのエラーが発生した場合は統合処理完了後に下図のような画面が表示されますので、エラー内容をご確認頂き、必要に応じて実行し直してください。



【補足 2】 処理途中に ESC キーを押した場合、下図のような画面が表示され処理が中止されます。

下図のメッセージはタイミングにより表示されなかったり、別のメッセージが表示されることもあります。また、前述の通り、処理中に一度でも ESC キーを押した場合、仮に中断処理が間に合わず最後まで処理が終了したとしても、作成された統合表のデータの内容は保証されません。必要に応じて再度実行をお願いいたします。

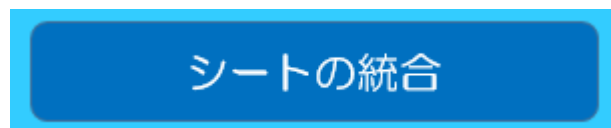


表の統合の操作手順は以上となります。

### 3. 「シートの統合」機能の操作手順について

複数のファイルに分散している Excel シートについて、このシートを 1 つのファイルにまとめたい場合、この「シートの統合」機能を使うと便利です。**(※グラフシートには対応していません。)**  
下記以降でこの機能についての操作方法をご説明します。

3-1. E-Speedy のメニューから下図の「シートの統合」ボタンをクリックします。



3-2. 下図のような「シートの統合処理」の画面が表示されます。

下図の画面に各種設定を行ってから、シートの統合処理をスタートします。

シートの統合処理

同一フォルダ内に存在する各ファイルのシートを1つのファイルに統合します。

【統合元ファイルが格納されているフォルダを指定】

参照

【統合するシートを指定】

☒ 共通シート名（、で複数指定可）

☐ 左から数えたシート位置（、で複数指定可）

☐ 全てのシート

番目

【ファイルのパスワード（、で複数指定可）】

【ブックの保護パスワード（、で複数指定可）】

【非表示シートのコピー】

☐ 再表示可能な非表示シートをコピーする

☐ 再表示不可の非表示シートをコピーする

【エラー発生時の処理継続有無】

☒ コピー可能なシートだけ統合する

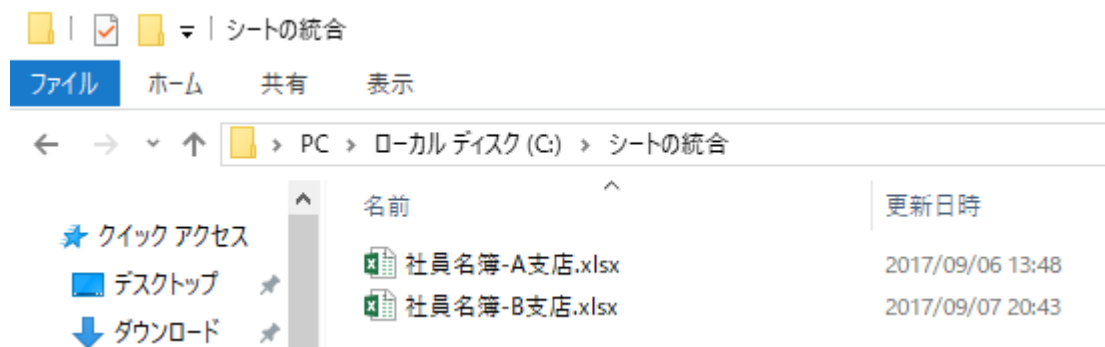
☐ 処理を中止する

実行

閉じる



3-3. 簡単な例題としまして、下図のように「シートの統合」フォルダに格納された2つのファイル「社員名簿-A支店.xlsx」と「社員名簿-B支店.xlsx」のファイルのシートでそれぞれの社員名簿のシートを1つのファイルにまとめる例を考えてみます。



「社員名簿-A支店.xlsx」のファイルを開いた状態

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7								

Sheet1: A支店 | Sheet2 | Sheet3

「社員名簿-B支店.xlsx」のファイルを開いた状態

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00003	清水 博之	男	44	神奈川県川崎市〇〇町7-3	042-***-****	
3	2	00007	須田 雅子	女	30	埼玉県所沢市△△町4-4	04-****-****	
4	3	00040	田島 昭雄	男	25	千葉県柏市□□町5-1	04-****-****	
5	4	00071	仁村 香	女	37	栃木県今市市〇〇町6-4	0288-**-****	
6	5	00201	矢島 勉	男	52	群馬県前橋市△△町9-5	027-***-****	
7								

Sheet1: B支店 | Sheet2 | Sheet3

### 3-4. シートの統合処理画面の各設定項目について

#### 3-4-1. 統合元ファイルが格納されているフォルダを指定

事前に統合したいシートが存在する Excel ファイル(拡張子が.xls または.xlsx のファイル)を 1 つのフォルダにまとめておきます。このフォルダまでのパスを下図の空白の部分に設定します。通常は、右側にある

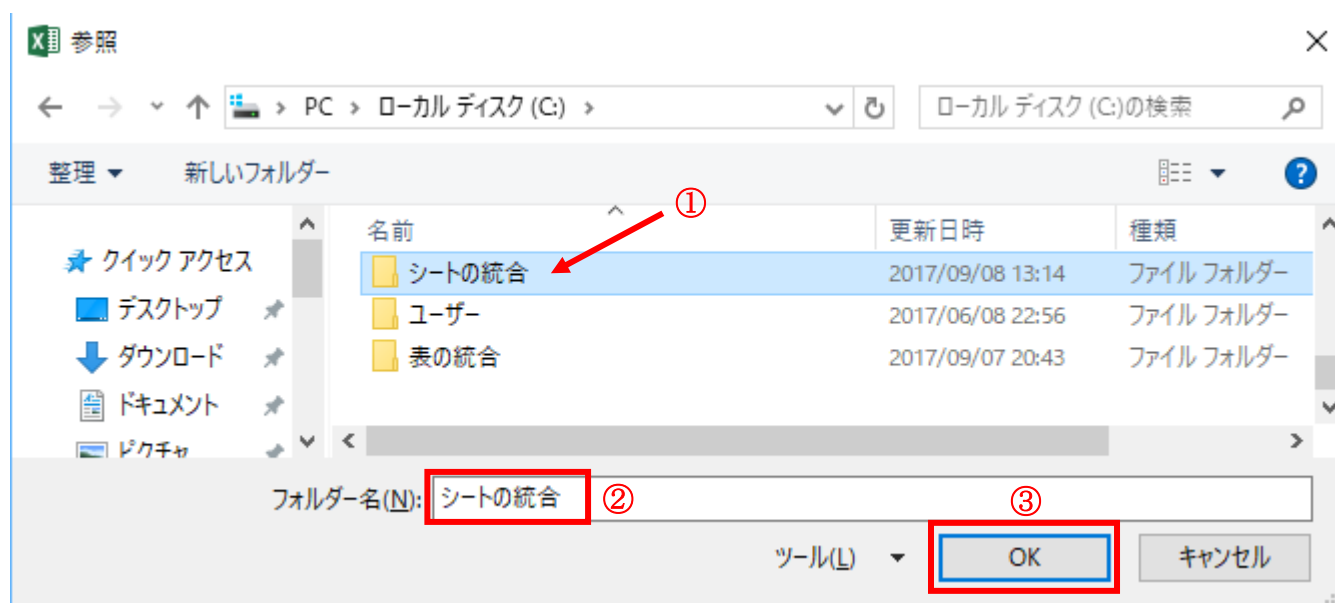
「参照」ボタンをクリックしてファイルが格納されているフォルダを選択するとパスが自動で設定されますので、便利です。

【統合元ファイルが格納されているフォルダを指定】

参照

「参照」ボタンをクリックすると下図のようなフォルダ選択画面が開かれます。シートの統合をしたいファイルが格納されているフォルダ探して頂き、そのフォルダをクリックして選択します。(①)

(本例では、C ドライブ直下の「シートの統合」フォルダの中に統合したいファイルが格納されていると仮定していますので、下図の「シートの統合」のフォルダをクリックします。)



上図でフォルダー名の部分に統合したいファイルが格納されているフォルダ名が表示されていることを確認したら(②)「OK」ボタンをクリックしてください。(③)

本例では下図のようになりました。統合したいファイルが格納されているフォルダまでのパスが正しく設定されていることを確認してください。

【統合元ファイルが格納されているフォルダを指定】

C:\シートの統合

参照

### 3-4-2. 統合するシートを指定

下図の設定は、各ファイルのシートの中で**どのシートを統合するか**を指定します。

【統合するシートを指定】

☒ 共通シート名（、で複数指定可）      ☐ 左から数えたシート位置（、で複数指定可）      ☐ 全てのシート

           番目

#### ・共通シート名：

各ファイルで統合したいシート名が同じ場合、「共通シート名」にチェックして、空白部にそのシート名を入力します。

【補足】1つのファイルに統合したいシートが複数ある場合、半角の「,」で区切って設定してください。  
この場合、「,」の前後にはスペースを含めずに入力してください。  
(ただし、シート名そのものにスペースを含む場合は除きます。)

【入力例】Sheet1,Sheet2,Sheet3

【注意点】複数の共通シートを設定した場合、その設定した順番でシートの統合が行われます。

#### ・左から数えたシート位置：

各ファイルで統合したいシートが存在している左から数えたシートの位置が同じ場合、「左から数えたシート位置」にチェックして、空白部にその番号を入力します。  
本例の場合、各ファイルの統合したい表のシート名が「A支店」「B支店」ですので、前述の共通シート名は利用できないため、この項目を利用します。

【補足】1つのファイルに統合したいシートが複数ある場合、半角の「,」で区切って設定してください。  
この場合、「,」の前後にはスペースを含めずに入力してください。

【入力例】1,2,3

【注意点】複数の共通シートを設定した場合、その設定した順番でシートの統合が行われます。

#### ・全てのシート：

各ファイルに存在するシートをすべて統合したい場合、「全てのシート」にチェックしてください。

本例では、各ファイルで統合したい表が左から1番目のシートにありますので、下図のように設定しました。

A支店   Sheet2   Sheet3      B支店   Sheet2   Sheet3

【統合するシートを指定】

☐ 共通シート名（、で複数指定可）      ☒ 左から数えたシート位置（、で複数指定可）      ☐ 全てのシート

           番目

### 3-4-3-1. ファイルのパスワード

統合したいシートが存在しているファイルに読み取りパスワードが設定されている場合、下図の空白部にパスワードを入力します。ファイルごとに別々のパスワードが設定されているような場合は、半角の「,」で区切ってすべての候補を入力してください。

【ファイルのパスワード（, で複数指定可）】

【注意点】複数のパスワードを入力する場合、「,」の前後にはスペースを入れずに入力してください。  
(ただし、パスワードそのものの前後にスペースを含む場合は除きます。)

### 3-4-3-2. ブックの保護パスワード

統合したいシートが存在しているファイルにブックの保護パスワードが設定されている場合で、次の 3-4-5. でご説明する非表示シートのコピーを行いたい場合は、下図の空白部にパスワードを入力します。ファイルごとに別々のパスワードが設定されているような場合は、半角の「,」で区切ってすべての候補を入力してください。

【ブックの保護パスワード（, で複数指定可）】

【注意点】複数のパスワードを入力する場合、「,」の前後にはスペースを入れずに入力してください。  
(ただし、パスワードそのものの前後にスペースを含む場合は除きます。)

### 3-4-4. 非表示シートのコピー

現在、非表示になっているシートもコピーする場合は、下図のチェックボックスにチェックします。

【非表示シートのコピー】

☐ 再表示可能な非表示シートをコピーする

☐ 再表示不可の非表示シートをコピーする

#### ・再表示可能な非表示シートをコピーする

利用者の方が再表示できるタイプの非表示シート(開発環境でのシートの **Visible** プロパティの設定値が **xlSheetHidden** のシート)をコピーする場合にチェックします。

#### ・再表示不可の非表示シートをコピーする

利用者の方が再表示できないタイプの非表示シート(開発環境でのシートの **Visible** プロパティの設定値が **xlSheetVeryHidden** のシート)をコピーする場合にチェックします。

### 3-4-5. エラー発生時の処理継続有無

下記の設定は、処理中にエラーが発生した場合の対処法を設定します。

#### 【エラー発生時の処理継続有無】

☒ コピー可能なシートだけ統合する    ☐ 処理を中止する

#### ・コピー可能なシートだけ統合する

処理中にファイルが開けなかったり、コピーできないシートなどがあった場合に

処理をスキップして、シートのコピーが可能なものだけを統合していきます。

エラー発生時でも処理は中断せず、統合処理が終わった後に、エラー箇所を表示します。

但し、予期せぬエラーが発生した場合は、処理が中止されることもありますのでご了承ください。

#### ・処理を中止する

処理中にファイルが開けなかったり、コピーできないシートがあった場合に

その時点で処理を中止し、エラー内容を表示します。

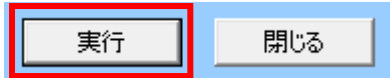
次ページに続きます....

### 3-5. シートの統合処理の実行

シートの統合処理の画面での設定が終わりましたら、下図の「実行」ボタンをクリックします。

※他の Excel ファイルが開いているとエラーになりますので閉じてからクリックしてください。

また、他のファイルが開いていないにも関わらず警告がでる場合は、一旦ツールを終了してみてください。  
開いたままのファイルが表示されることがあります。



【注意点】「実行」ボタンクリック後の処理について下記の注意点がありますのでご確認ください。

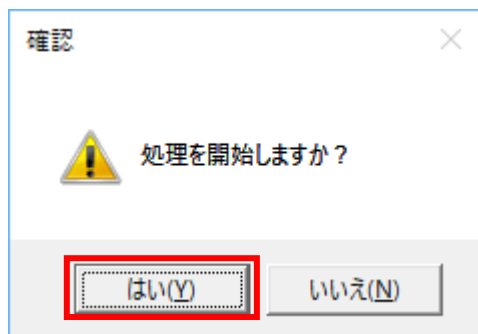
- ・画面の設定に不備があるとエラーになりますので、設定を再度ご確認ください。
- ・指定したフォルダの名前の順、指定したシートの順にシートが統合処理されていきます。
- ・統合できるシート数の上限を 999 シートに設定しています。
- ・処理中に読み込まれるファイルは「読み取り専用」で開かれますので、内容は変更されません。
- ・統合対象のファイルの中に起動時に実行されるようなマクロを含むファイルがある場合、処理が停止する可能性があります。マクロを含むファイルの取り扱いには十分ご注意ください。
- ・統合元のファイルのセルに別のファイルを参照するような式がある場合(外部参照やリンクといいます)、リンク元のファイルの最新の値で更新はされず、そのままコピーされます。(※1)
- ・シートを統合していくなかで、名前の定義に同じ名前が使用される状況(名前の定義の重複)が発生した場合、元の名前のままシートがコピーされます。
- ・非表示シートもコピーするように指定した場合、作成された統合ファイル上では表示状態になります。
- ・統合ファイルでのシート名は[統合元のファイル名]\_[シート名] の形式となります。Excel でのシート名に設定できる文字数は 31 文字ですが、本ツールでは余裕を見て 30 文字に設定しています。処理中にこの文字数をオーバーした場合、統合できませんので、その場合はファイル名やシート名を事前に短めに調整してください。
- ・途中で処理を中止したい場合、ESC キーを押し続けてしてください。  
この操作により処理が中止され、その後はメニュー画面からの操作となります。  
但し、処理途中に一度でも ESC キーを押した場合、仮に中断処理が間に合わず最後まで処理が終了したとしても、作成された統合ファイルの内容は保証されません。  
必要に応じて再度実行をお願いいたします。

※1 について：

本ツールでは外部参照やリモート参照を更新しない設定でファイルを開きますが、外部参照やリモート参照を含むファイルの場合、十分検証の上、ご利用ください。

次ページに続きます.....

3-5-1. 実行ボタンをクリックすると下図の画面が表示されますのでよろしければ「はい」をクリックしてください。

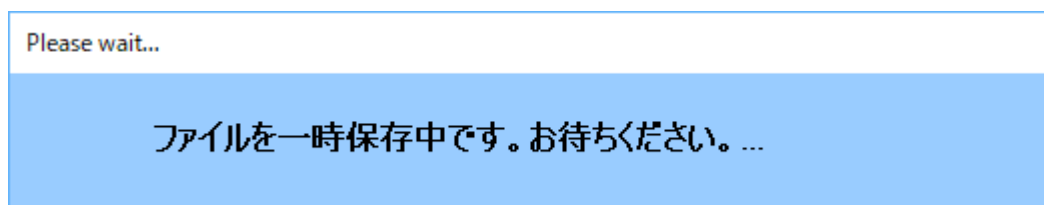


3-5-2. 処理が始まると、下図のような進捗状況が表示されます。

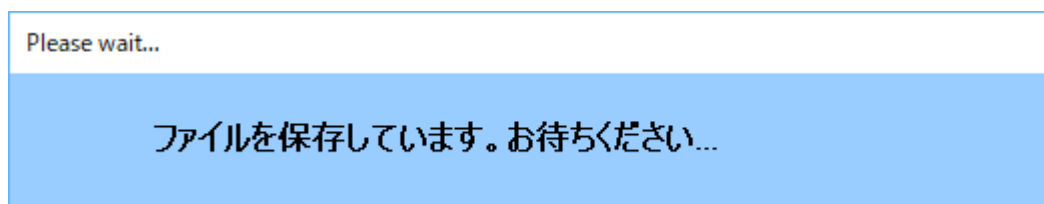
進捗状況 (ESCキーで中止できます。)



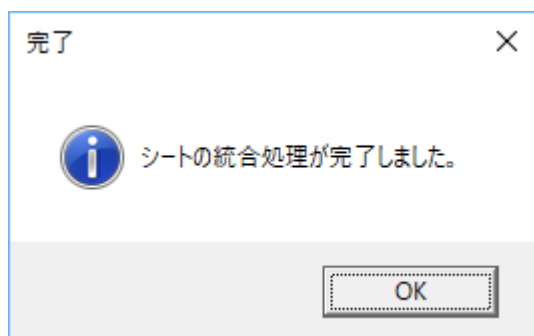
【補足】 統合するシート数が多い場合、下図のようなメッセージが表示され、ファイルが一時保存されながら処理が進みます。



3-5-3. 処理の終了直前にファイルが保存されますので、下図のような画面が表示されます。



3-5-4. シートの統合処理が完了すると下図の画面が表示されますので「OK」をクリックしてください。

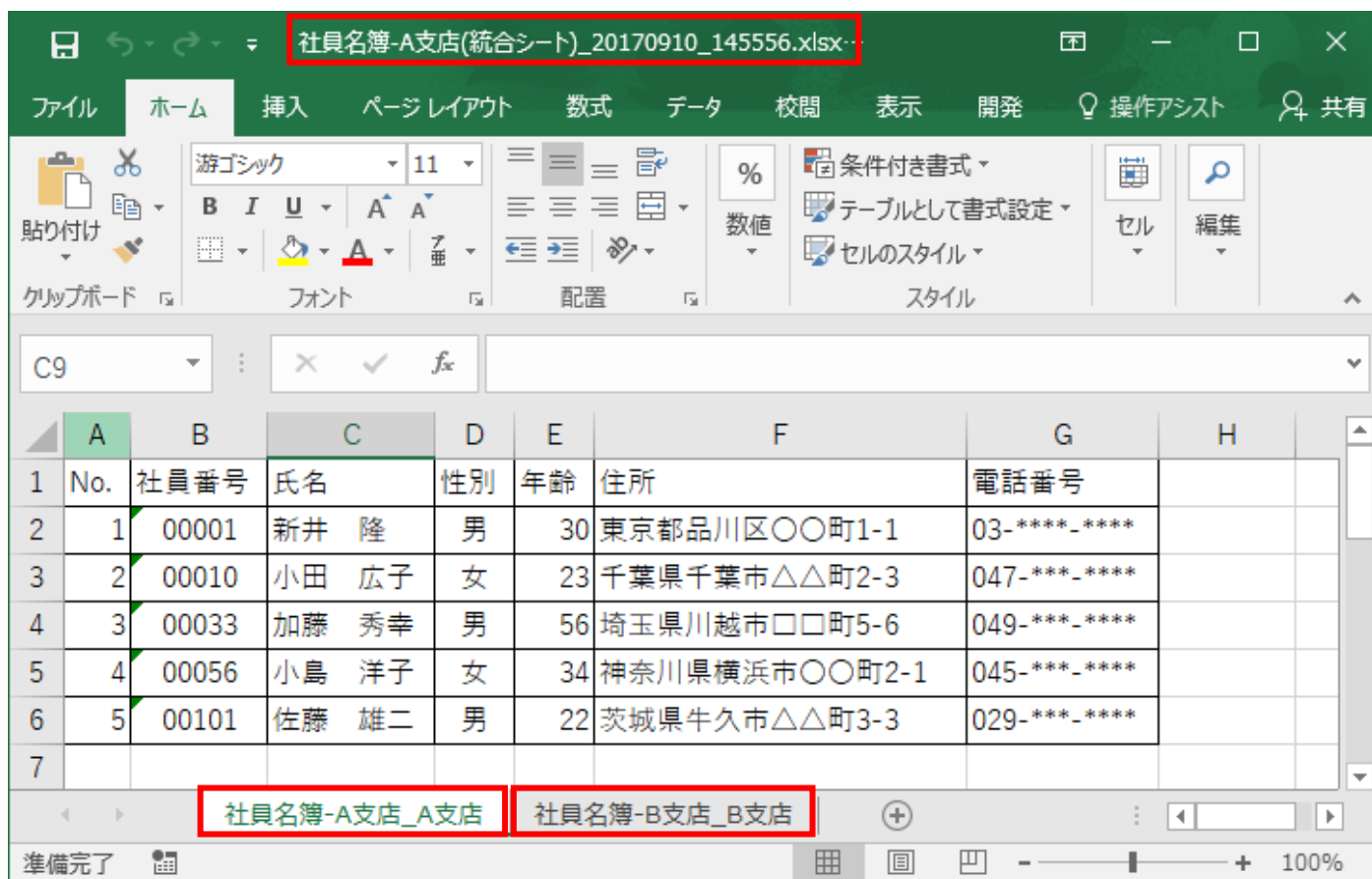


3-5-5. 処理が完了すると画面上に下図のように統合されたファイルが表示されます。  
作成される統合シートのファイル名とシート名の形式は以下のようになります。  
必要に応じてファイル名等は変更をお願いいたします。

**ファイル名：** [ 最初に読み込んだファイル名(統合シート) ] [ 本日の日付 ] [ 作成時刻 ].xlsx

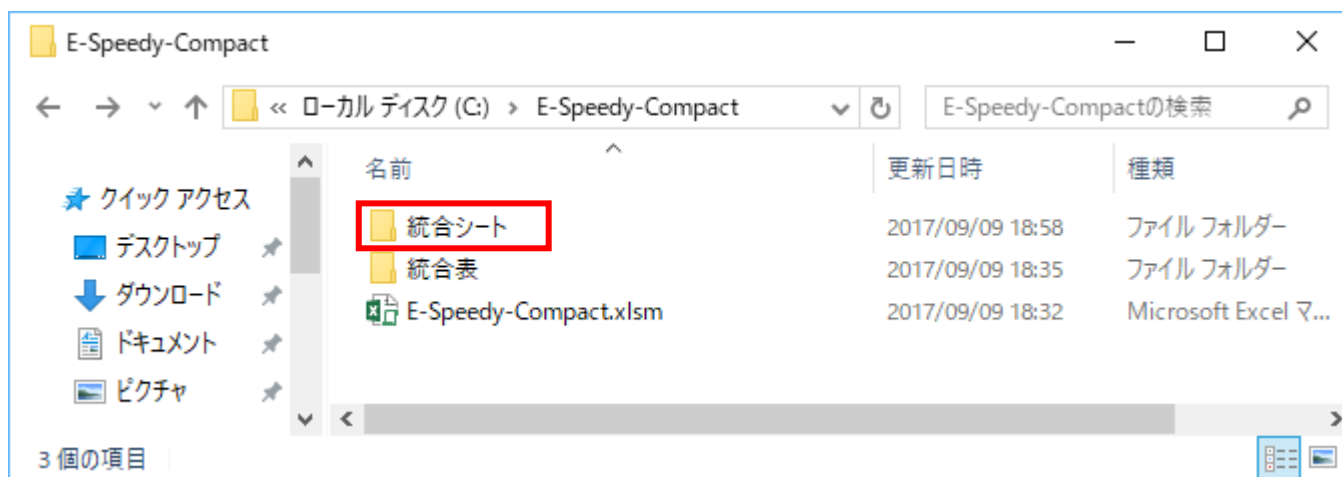
**各シート名：** [ 統合元のファイル名(拡張子なし)\_統合元のシート名 ]

【補足】 下図のウィンドウを移動するときは、赤枠部のファイル名の部分をクリックしてドラッグすれば移動できます。

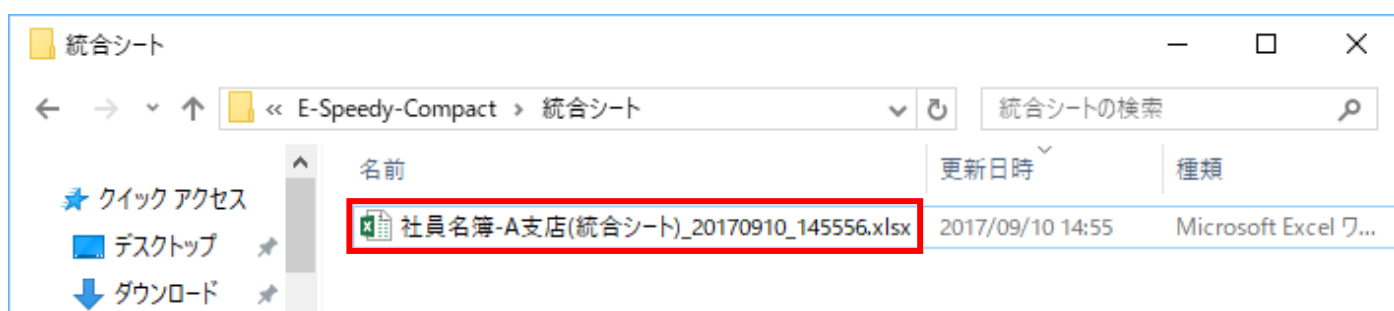




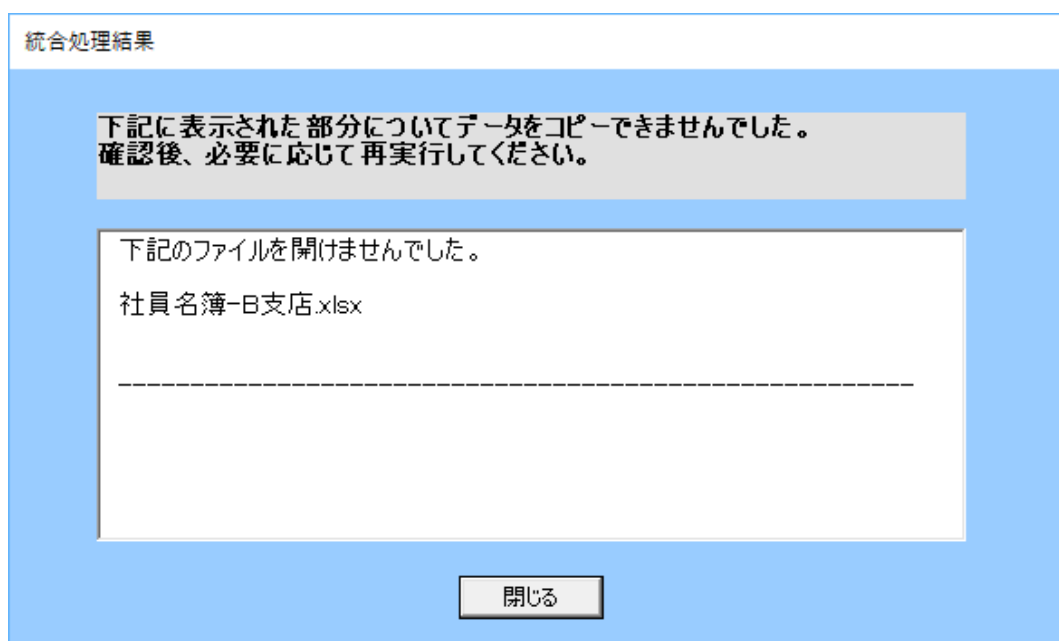
また、下図のようにツールが格納された「E-Speedy-Compact」フォルダの中に、「統合表」というフォルダが作成され、このフォルダの中に統合表のファイルが保存されています。



下図は統合シートフォルダを開いたときの状態になります。

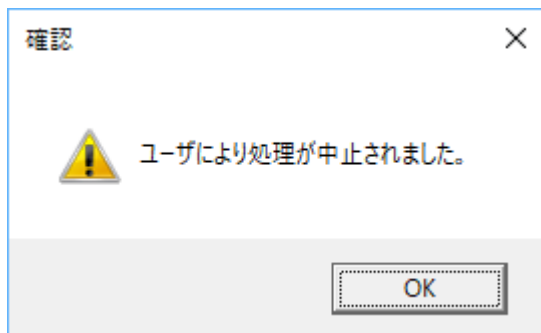


【補足 1】 シートの統合処理の設定画面で、「エラー発生時の処理継続有無」を「コピー可能なシートだけ統合する」に設定にして実行した場合で、処理途中にファイルが開けないなどのエラーが発生した場合はシートの統合処理完了後に下図のような画面が表示されますので、エラー内容をご確認頂き、必要に応じて実行し直してください。



【補足 2】 処理途中に ESC キーを押した場合、下図のような画面が表示され処理が中止されます。

下図のメッセージはタイミングにより表示されなかったり、別のメッセージが表示されることもあります。また、前述の通り、処理中に一度でも ESC キーを押した場合、仮に中断処理が間に合わず最後まで処理が終了したとしても、作成された統合ファイルのデータの内容は保証されません。必要に応じて再度実行をお願いいたします。



シートの統合の操作手順は以上となります。

#### 4. 「セル範囲の比較」機能の操作手順について

Excel の 2 つのセル範囲について、セル範囲を比較して違いを確認したいとき、この機能を使うと便利です。下記以降でこの機能についての操作方法をご説明します。

4-1. E-Speedy のメニューから下図の「セル範囲の比較」ボタンをクリックします。



4-2. 下図のような「セル範囲の比較」の画面が表示されます。

下図の画面に各種設定を行ってから、セル範囲の比較処理をスタートします。

セル範囲の比較

比較したいセル範囲を設定して[比較実行]ボタンをクリックしてください。(単一範囲のみ指定可能)

【セル範囲その1】

選択範囲を取得

【セル範囲その2】

選択範囲を取得

【比較するプロパティ】

☒ 値 ☐ 数式その1 (Formula) ☐ 数式その2 (FormulaR1C1Local) ☐ 画面表示 ☐ 書式

【相違セルの着色】

☐ する

比較実行

閉じる

次のページに続きます.....

#### 4-3. 簡単な例題としまして下図のような修正前と修正後の2つのファイルの

「社員名簿-A支店\_修正前.xlsx」と「社員名簿-A支店\_修正後.xlsx」のセル範囲を比較して  
どの部分の修正が行われたかを確認する例を考えてみます。

【注意点】 下図のように比較したいセルを含むファイルを事前に開いておいてください。

また、オートフィルタが設定されている場合は、解除しておいてください。

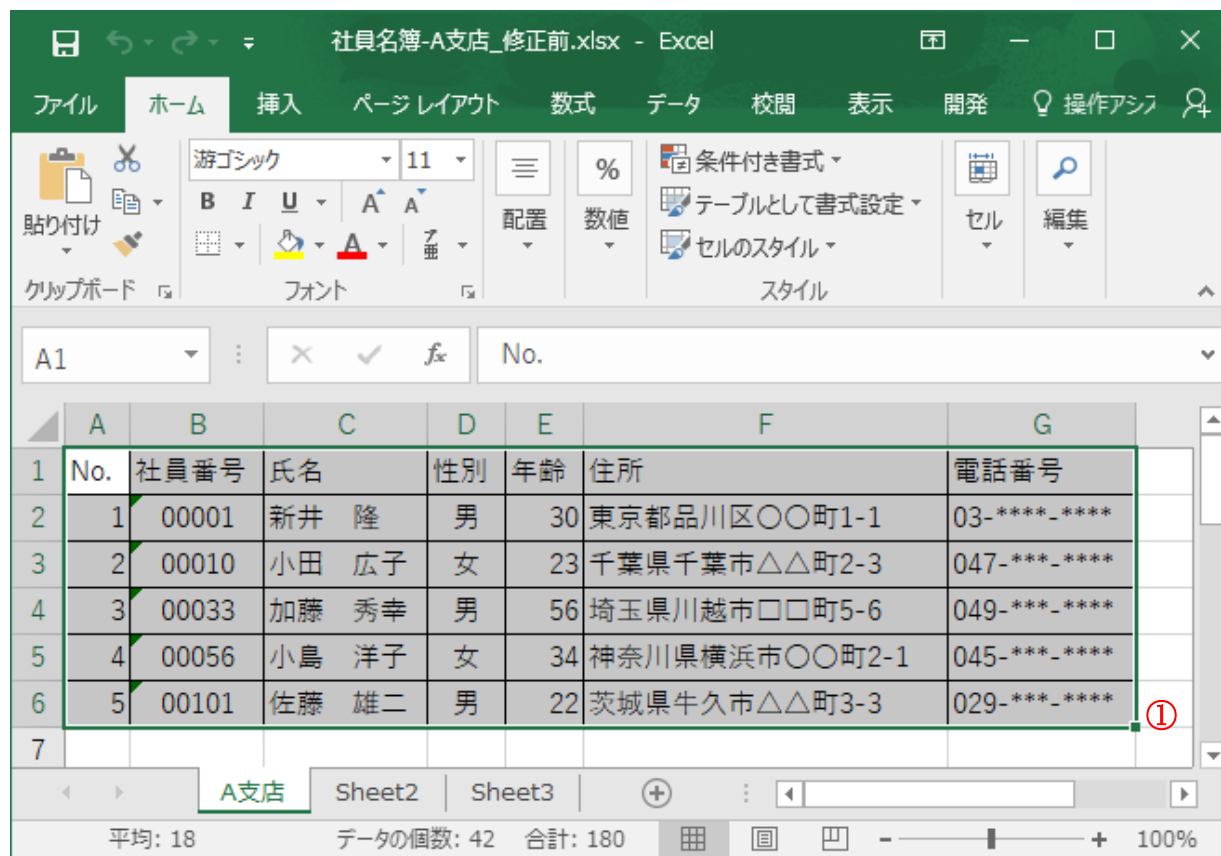
社員名簿-A支店\_修正前.xlsx - Excel

No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号
1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****
2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-****-****
3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-****-****
4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-****-****
5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-****-****

社員名簿-A支店\_修正後.xlsx - Excel

No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号
1	00001	新井 隆	男	35	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****
2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-****-****
3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-****-****
4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-****-****
5	00101	佐藤 雄二	男	22	栃木県今市市△△町5-3	0288-***-****

4-4. まず、「社員名簿-A支店\_修正前.xlsx」のファイルの「A支店」の表全体を下図のようにマウスでドラッグして選択します。(①)



4-5. 続いて「セル範囲の比較」画面に戻って頂き、画面右側の「選択範囲の取得」ボタンをクリックします。(②) クリックすると、【セル範囲その1】の部分にその範囲が表示されます。(③)

セル範囲の比較

比較したいセル範囲を設定して[比較実行]ボタンをクリックしてください。(単一範囲のみ指定可能)

③
【セル範囲その1】
' [社員名簿-A支店\_修正前.xlsx]A支店' !\$A\$1:\$G\$6

②
選択範囲を取得

【セル範囲その2】

選択範囲を取得

【比較するプロパティ】
☒ 値
☐ 数式その1 (Formula)
☐ 数式その2 (FormulaR1C1Local)
☐ 画面表示
☐ 書式

【相違セルの着色】
☐ する

比較実行

閉じる

<前ページからの続きです>

セル範囲の比較

比較したいセル範囲を設定して[比較実行]ボタンをクリックしてください。(単一範囲のみ指定可能)

【セル範囲その1】 '[社員名簿-A支店\_修正前.xlsx]A支店'!\$A\$1:\$G\$6 選択範囲を取得

【セル範囲その2】 選択範囲を取得

【比較するプロパティ】 ☒ 値 ☐ 数式その1 (Formula) ☐ 数式その2 (FormulaR1C1Local) ☐ 画面表示 ☐ 書式

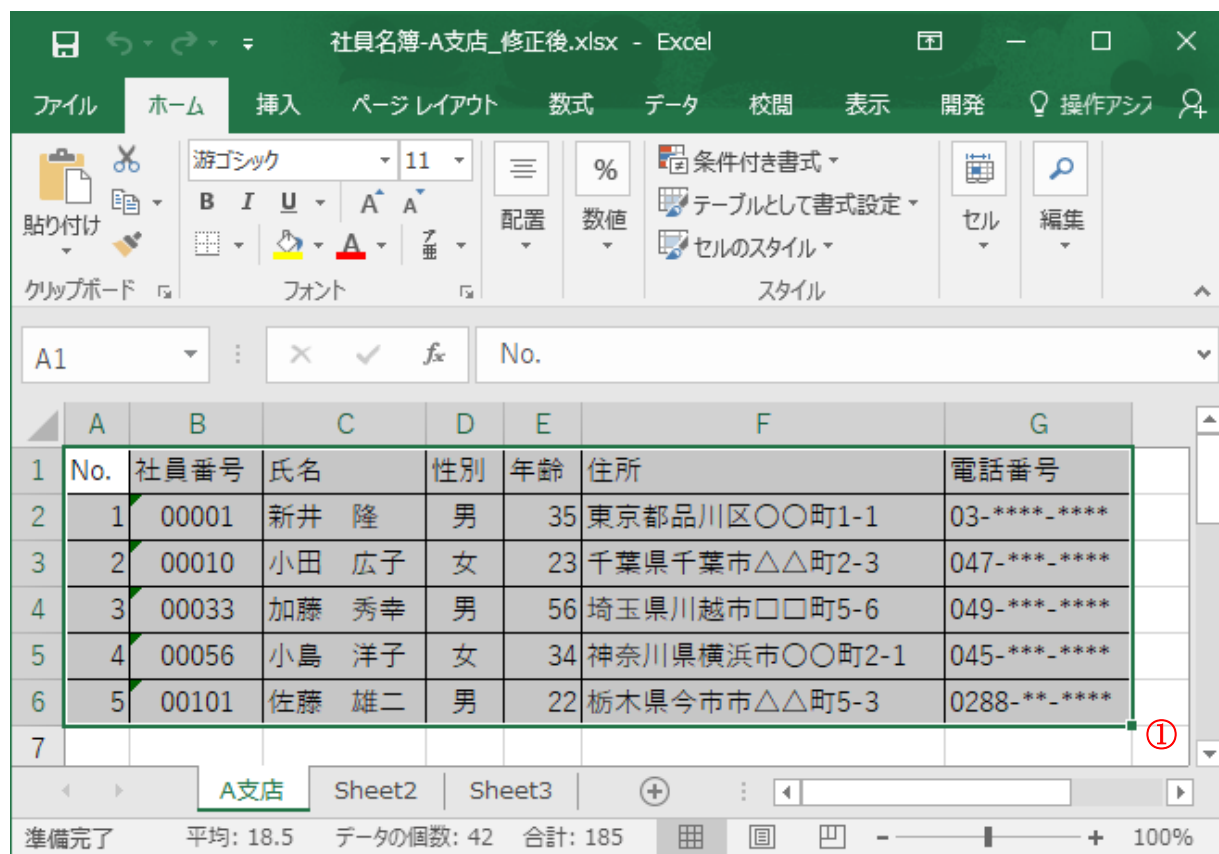
【相違セルの着色】 ☐ する

比較実行 閉じる

【注意点】 ※下記の注意点は次ページでご説明する【セル範囲その2】も同じです。

- ・上図の「セル範囲の比較」画面で選択範囲が表示された後に「選択範囲を取得」ボタンを再度クリックすると、選択範囲がクリアされます。
- ・環境により、手順 4-4.でセル範囲を選択後、一旦「セル範囲の比較」画面をクリック、続いて「選択範囲を取得」ボタンをクリックの順で操作を行うと、選択範囲が表示されない場合があります。この場合お手数ですが、セル範囲を選択後、「セル範囲の比較」画面に触れずに、直接「選択範囲を取得」ボタンをクリックしてみてください。(セル範囲を選択後、直接「選択範囲を取得」ボタンをクリックできるように画面やブックの配置を工夫してみてください。)
- ・「選択範囲を取得」ボタンをクリックしてもどうしても画面上に選択範囲が表示されない場合は、該当のブックが保存されていない場合は、一旦保存して閉じて頂き、そのファイルを E-Speedy のツールのウィンドウにドラッグして開き直してからお試しください。  
「E-Speedy-Compact トラブルシューティング.pdf」のマニュアルの  
「2. 処理したいブック名（ファイル名）がツール画面に表示されない（認識されない）」の対処法も合わせてご確認ください。
- ・【セル範囲その1】と【セル範囲その2】のセルの範囲で指定できるのは単一の四角形の領域のみで(※)、凸型や離れた領域等の複数の領域は指定できません。また、この※の領域のサイズは同じである必要があります。【セル範囲その1】と【セル範囲その2】の大きさが異なると、比較実行時にエラーとなります。

4-6. 続いて、「社員名簿-A支店\_修正後.xlsx」のファイルの「A支店」の表全体を下図のようにマウスでドラッグして選択します。(①)



4-7. 続いて「セル範囲の比較」画面に戻って頂き、画面右側の「選択範囲の取得」ボタンをクリックします。(②) クリックすると、【セル範囲その2】の部分にその範囲が表示されます。(③)

セル範囲の比較

比較したいセル範囲を設定して[比較実行]ボタンをクリックしてください。(単一範囲のみ指定可能)

【セル範囲その1】
' [社員名簿-A支店\_修正前.xlsx]A支店' !\$A\$1:\$G\$6

選択範囲を取得

③
【セル範囲その2】
' [社員名簿-A支店\_修正後.xlsx]A支店' !\$A\$1:\$G\$6

②

選択範囲を取得

【比較するプロパティ】
☒ 値
☐ 数式その1 (Formula)
☐ 数式その2 (FormulaR1C1Local)
☐ 画面表示
☒ 書式

【相違セルの着色】
☐ する

比較実行

閉じる

4-8. 下図の【比較するプロパティ】ではセルを比較する際にどの項目で比較するかを決めます。  
比較したい項目にチェックしてください。

【比較するプロパティ】	<input checked="" type="radio"/> 値	<input type="radio"/> 数式その1 (Formula)	<input type="radio"/> 数式その2 (FormulaR1C1Local)	<input type="radio"/> 画面表示	<input type="radio"/> 書式
-------------	------------------------------------	---------------------------------------	--	----------------------------	--------------------------

・ 値 :

セル同士を **値** で比較した場合に相違がないかチェックします。  
内部的に Value というプロパティで比較します。

・ 数式その1 (Formula) :

セル同士を **A1 参照形式の数式** で比較した場合に相違がないかチェックします。  
内部的に Formula というプロパティで比較します。

・ 数式その2 (FormulaR1C1Local) :

セル同士を **R1C1 参照形式の数式** で比較した場合に相違がないかチェックします。  
内部的に FormulaR1C1Local というプロパティで比較します。

・ 画面表示 :

セル同士を **画面上の表示** で比較した場合に相違がないかチェックします。  
この項目は、例えば数字などが入力されているセルにおいて、本当は 123 という数字が入っているのに、セルの幅が狭く画面上では#マークになっているような場合、123 と#を比較するとイコールではないと判定されます。このような比較を行いたい場合にご利用ください。  
内部的に Text というプロパティで比較します。

・ 書式 :

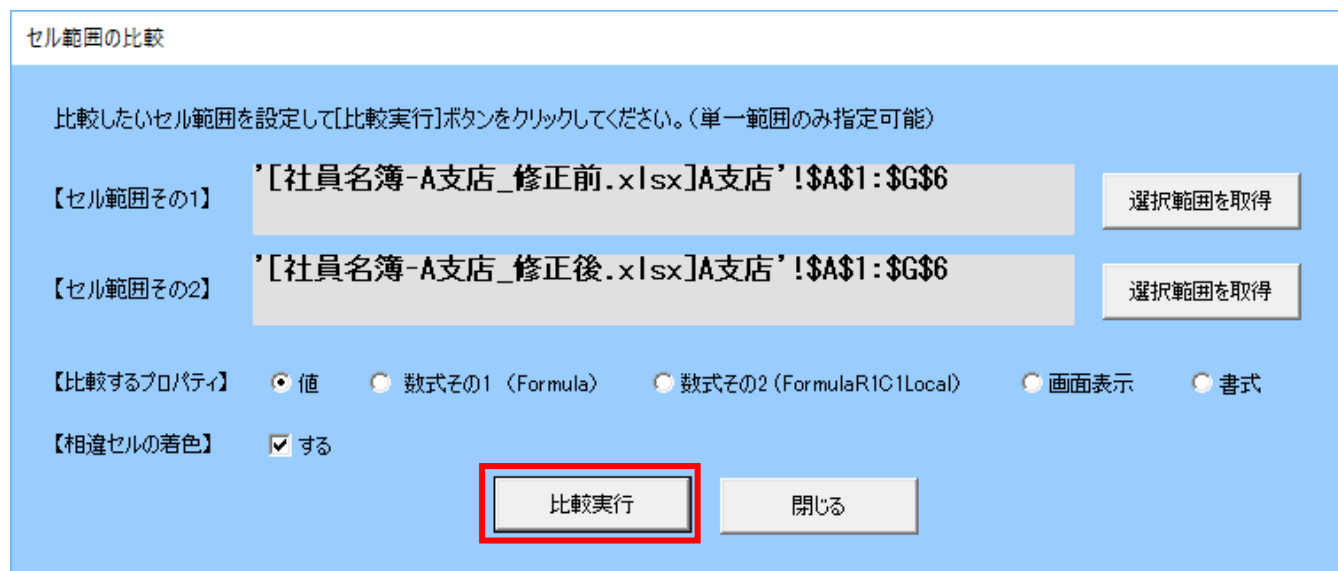
セル同士を **書式** で比較した場合に相違がないかチェックします。  
内部的に NumberFormatLocal というプロパティで比較します。

4-9. 下図の【相違セルの着色】では比較するセル同士に違いがあった場合に、それぞれのセルを着色して分かりやすくするかを決めます。着色したい場合はチェックしてください。  
**ただし、着色されたセルについて、必要に応じて手動で元に戻して頂く必要があります。**  
**また、シートの保護がされていると着色できないことがありますので十分ご注意ください。**

【相違セルの着色】	<input checked="" type="checkbox"/> する
-----------	--

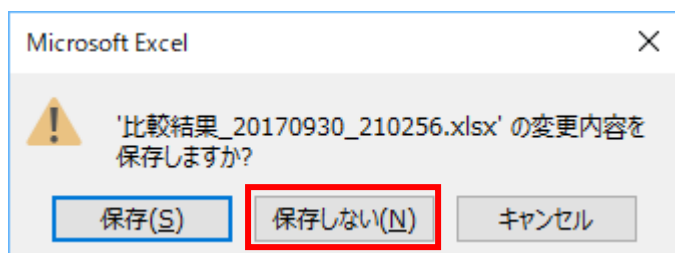


4-10. 本例題では、下図のような設定になりました。準備ができましたら「実行」ボタンをクリックします。



【注意点】「実行」ボタンクリック後の処理について下記の注意点がありますのでご確認ください。

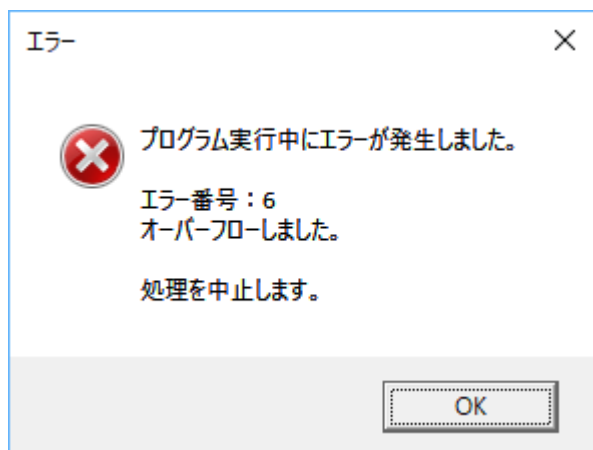
- ・ 処理に時間がかかる場合、処理の進捗状況が表示されますのでそのままお待ちください。
- ・ プログラム実行中に比較対象となるファイルを絶対に閉じないでください。 もし閉じた場合、現在開いている他の Excel ファイルがフリーズ状態となり、ツールも終了できなくなります。また、下図のようにツールのバックグラウンドで記録中の比較結果ファイルの保存を求められますので「保存しない」をクリックしてください。



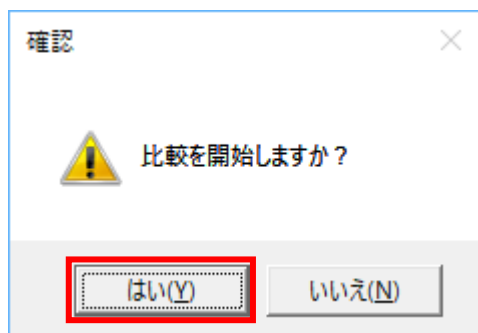
これ以降の操作については、別紙の「E-Speedy-Compact トラブルシューティング.pdf」の「3. Excel のブックがフリーズのようになり操作できない」の中の「3-3. パターンその 3」または、「4. ツールの強制終了」項の操作をお試しくください。

- ・ 途中で比較処理を中止したい場合、ESC キーを押し続けてしてください。  
この操作により処理が中止され、その後はメニュー画面からの操作となります。  
但し、処理途中に一度でも ESC キーを押した場合、仮に中断処理が間に合わず最後まで処理が終了したとしても、作成された比較結果ファイルのデータの内容は保証されません。  
必要に応じて再度実行をお願いいたします。

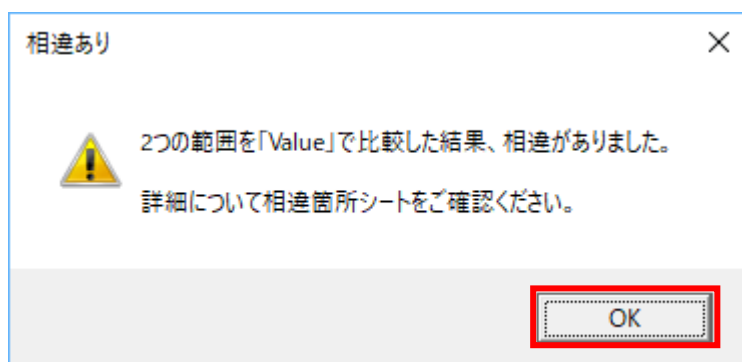
- ・比較範囲が大きすぎる場合、下図のようなエラーになることがあります。その場合は、比較する範囲を分けて実行してください。



- 4-11. 「実行」ボタンをクリックすると下図のような画面が表示されますので、準備ができたなら「はい」をクリックしてください。



- 4-12. 比較が終了して、相違箇所があった場合は、下図のようなメッセージが表示されますので「OK」をクリックしてください。



次ページに続きます.....

4-13. 前ページで「OK」をクリックすると、画面上には下図のように相違箇所がリストで表示されますので内容をご確認ください。

	A	B	C	D
1	[社員名簿-A支店_修正前.xlsx]A支店		[社員名簿-A支店_修正後.xlsx]A支店	
2	セル	Value	セル	Value
3	\$E\$2	30	\$E\$2	35
4	\$F\$6	茨城県牛久市△△町3-3	\$F\$6	栃木県今市市△△町5-3
5	\$G\$6	029-***-****	\$G\$6	0288-**-****
6				
7				

また、上図の比較結果はツール本体が格納されている「E-Speedy-Compact」フォルダの「比較結果」フォルダに下図のような形で保存されます。ファイル名の形式は以下の通りです。

**ファイル名：** [ 比較結果 ] [ 本日の日付 ] [ 作成時刻 ].xlsx

名前	更新日時	種類	サイズ
比較結果_20170914_153005.xlsx	2017/09/14 15:30	Microsoft Excel ワ...	

比較をした双方のセル範囲においては、下図のように相違箇所の水色で着色されます。  
(本資料の例題において、相違セルを着色するように設定したため)

社員名簿-A支店\_修正前.xlsx - Excel

	A	B	C	D	E	F	G
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****
7							

A支店 Sheet2 Sheet3

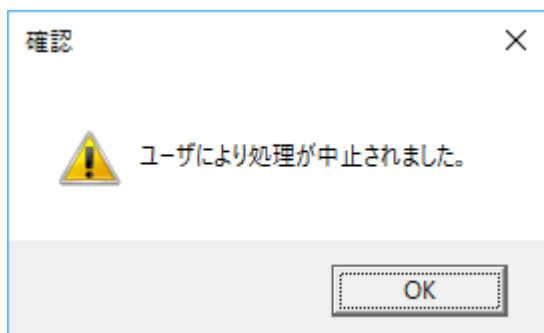
社員名簿-A支店\_修正後.xlsx - Excel

	A	B	C	D	E	F	G
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号
2	1	00001	新井 隆	男	35	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	栃木県今市市△△町5-3	0288-**-****
7							

A支店 Sheet2 Sheet3

【補足】 処理途中に ESC キーを押した場合、下図のような画面が表示され処理が中止されます。

下図のメッセージはタイミングにより表示されなかったり、別のメッセージが表示されることもあります。また、前述の通り、処理中に一度でも ESC キーを押した場合、仮に中断処理が間に合わず最後まで処理が終了したとしても、作成された比較結果ファイルのデータの内容は保証されません。必要に応じて再度実行をお願いいたします。



セル範囲の比較の操作手順は以上となります。

## 5. 「簡易数式分析」機能の操作手順について

セルに数式が設定されている場合で、名前の定義などがされておらず、その数式が長くなって意味が分かりづらくなってしまった場合に、その数式のセル番地の部分を表のタイトルに置き換えて(※)表示する簡易機能がこの機能です。下記以降でこの機能についての操作方法をご説明します。

※タイトルに置き換えが可能なのは数式が存在するセルと同一シート内のセル番地に限られます。

本機能の注意事項の詳細については、操作手順の解説の後の「5-9. 簡易数式分析機能の補足と注意事項」に記載しておりますので合わせてご覧ください。

5-1. E-Speedy のメニューから下図の「簡易数式分析」ボタンをクリックします。



5-2. 画面を準備するため、下図のようなメッセージが表示されます。(少しお時間を頂きます。)

Please wait...

画面の準備をしています。お待ちください。30% 完了

5-3. 下図のような「簡易数式分析」の画面が表示されます。

下図の画面に各種設定を行ってから、簡易数式分析の処理をスタートします。

※環境により、下図の【タイトルの行と列番号の設定例】の画像の表示され方が若干異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

簡易数式分析

セルの数式を表に設定されたタイトルで確認できます。(同一シート内の数式のみ)

行タイトル:  行目 ~  行目  
列タイトル:  列目 ~  列目

数式を分析したいセルを選択して[実行]ボタンをクリックしてください。

【タイトルの行と列番号の設定例】

	A	B	C	D	E	F	G
1			行タイトル	行タイトル	行タイトル	行タイトル 1行～2行	
2			行タイトル	行タイトル	行タイトル		
3	列タイトル	列タイトル	数式 or 値	数式 or 値	数式 or 値		
4	列タイトル	列タイトル	数式 or 値	数式 or 値	数式 or 値		
5	列タイトル	列タイトル	数式 or 値	数式 or 値	数式 or 値		
6	列タイトル A列～B列						
7							
8							
9							

5-4. 簡単な例題としまして、下図のような社員名簿で G8 セルに「=E2+E4+E6」という男性の年齢の合計の数式について、この数式を項目名で表示することを考えてみます。

G8

✕

✓

fx

=E2+E4+E6

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7								
8							108	
9								

A支店

Sheet2

Sheet3

+

上図の表の場合、行のタイトルは1行目と考えられますが、列タイトルについては捉え方によっては、A列～G列ととらえてもよいですし、C列のみと捉えることもできます。本例では下図のように行タイトルを1行目，列タイトルをC列目～D列目として考えてみます。

G8

✕

✓

*f<sub>x</sub>*

=E2+E4+E6

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	行タイトル
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7								
8							108	
9								

列タイトル

A支店

Sheet2

Sheet3

+

◀

▶

5-5. 本資料の例題では、下図のような設定になります。

行タイトル： 1行目しかない場合は、下図のように1行目～1行目のように入力します。

列タイトル： プルダウンメニューから前ページの通り、C列目～D列目と設定します。

【補足その1】本ツールでは、行番号を入力するタイトルを行タイトル、列番号を入力するタイトルを列タイトルと呼んでいます。

【補足その2】行タイトルのみ、列タイトルのみしか存在しない場合は、他方の項目を空欄にして利用します。

行タイトル:	<input type="text" value="1"/>	行目 ~	<input type="text" value="1"/>	行目
列タイトル:	<input type="text" value="C"/>	列目 ~	<input type="text" value="D"/>	列目

5-6. 上図のように設定が完了したら、一度、社員名簿で数式が入力されている G8セルをクリックしてから（既に数式のセルが選択されている場合は、再度数式のセルをクリックするか、もしくは数式が含まれているブックのタイトルバーをクリックするだけでも可）再度設定画面に戻ってください。

G8

✕

✓

fx

=E2+E4+E6

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	社員番号	氏名	性別	年齢	住所	電話番号	
2	1	00001	新井 隆	男	30	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7								
8							108	
9								

A支店

Sheet2

Sheet3

+

クリックします。



5-7. ここまでで、準備ができましたので、よろしければ下図の「実行」ボタンをクリックしてください。

簡易数式分析

セルの数式を表に設定されたタイトルで確認できます。(同一シート内の数式のみ)

行タイトル:  行目 ~  行目  
列タイトル:  列目 ~  列目

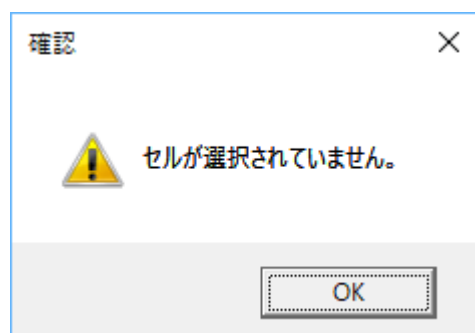
数式を分析したいセルを選択して[実行]ボタンをクリックしてください。

【タイトルの行と列番号の設定例】

	A	B	C	D	E	F	G
1			行タイトル	行タイトル	行タイトル	行タイトル 1行~2行	
2			行タイトル	行タイトル	行タイトル		
3	列タイトル	列タイトル	数式 or 値	数式 or 値	数式 or 値		
4	列タイトル	列タイトル	数式 or 値	数式 or 値	数式 or 値		
5	列タイトル	列タイトル	数式 or 値	数式 or 値	数式 or 値		
6	列タイトル A列~B列						
7							
8							
9							

#### 【注意点】

もし「実行」ボタンをクリックした時に下図のような画面が表示される場合は、下記の2点をご確認ください。

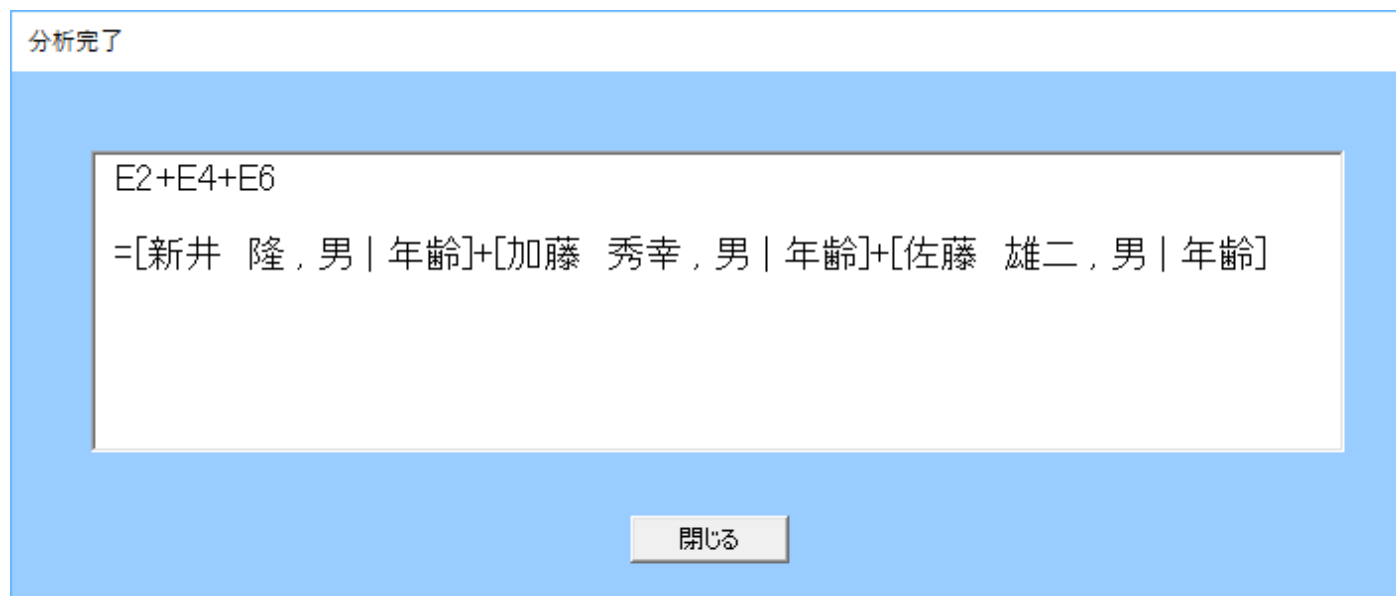


- ・環境により、手順 5-6.で数式のセルを選択後、一旦「簡易数式分析」画面をクリック、続いて「実行」ボタンをクリックの順で操作を行うと、上記のエラーになることがあります。この場合お手数ですが、**セルを選択後、「簡易数式分析」画面には触れずに、直接「実行」ボタンをクリックしてみてください。**(セルを選択後、直接「実行」ボタンをクリックできるように画面やブックの配置を工夫してみてください。)
- ・一度、「簡易数式分析」画面を閉じて「E-Speedy-Compact トラブルシューティング.pdf」のマニュアルの「2. 処理したいブック名 (ファイル名) がツール画面に表示されない (認識されない)」の対処法をご確認ください。

5-8-1. 「実行」 ボタンをクリックすると、下図のような分析結果画面が表示されます。

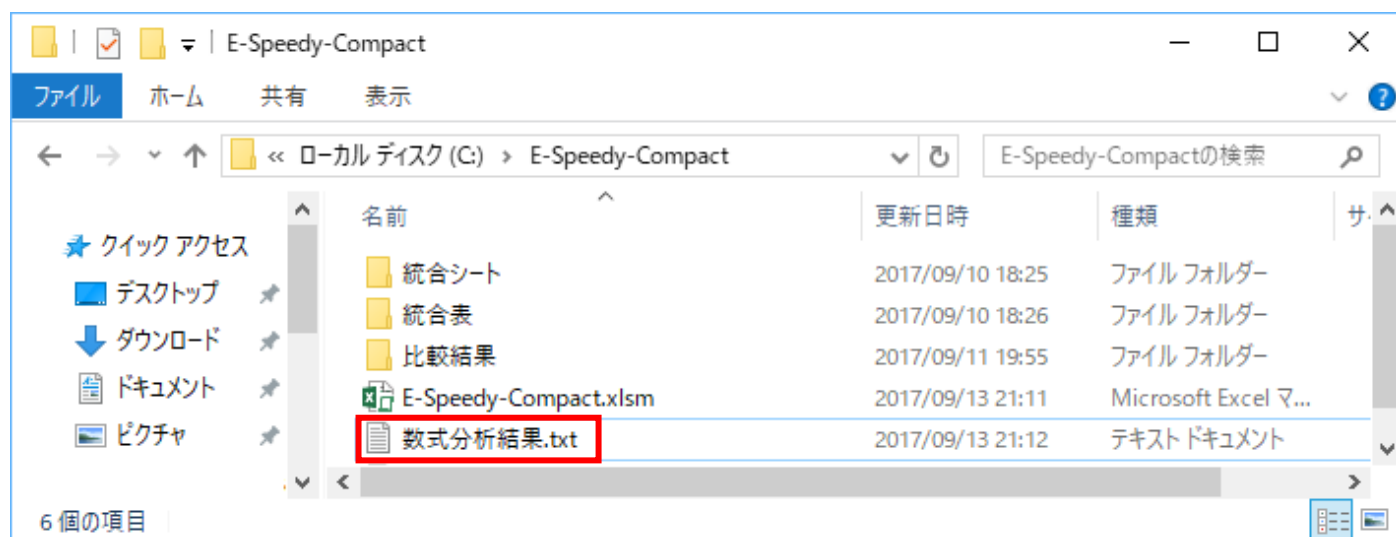
元々の数式について、セル番地の部分が 【 列タイトル... | 行タイトル... 】 の形に置き換わって表示されます。

下図の内容は画面からコピーして再利用が可能です。



次ページに続きます.....

5-8-2. また、ツール本体と同じ階層に下図のように「数式分析結果.txt」というファイルが格納されますので、必要に応じてこのファイルを確認します。



ファイルを開くと下図のような状態で表示されます。

このファイルは、手順 4-8-1.で表示された画面の内容を演算子等の前後で改行して縦方向に並べたものです。

(但し、VLOOKUP 関数は除きます。) 数式が横に長い場合で、縦方向で見たい場合に参考にしてください。

単純に縦方向に改行するだけのため、数式によっては見づらくなる場合もあります。

あくまで補助的な機能ですので、あらかじめご了承ください。



## 5-9. 簡易数式分析機能の補足と注意事項

### 【補足】

#### ・VLOOKUP 関数について：

簡易数式分析機能で分析できる数式は、基本的に数式が含まれるセルと同一シート内のセル番地のみで、そのセル番地を表のタイトルに置き換えて表示しますが、使用頻度の比較的高い VLOOKUP 関数についてのみ、数式が含まれるブックと同一ブック内のシートに限り、該当シートから項目を抽出して表示します。

簡単な例題としまして、例えば、下図のような販売リストの C2 セルに VLOOKUP 関数が設定されていて、単価シートを参照しているとします。この場合の C2 セルの数式を分析することを考えてみます。

C2	=VLOOKUP(A2,単価!A1:B4,2,FALSE)*B2					
	A	B	C	D	E	F
1	商品	販売数量	合計金額			
2	りんご	10	8000			
3	みかん	5	1000			
4	バナナ	7	8400			
5						

販売リスト 単価

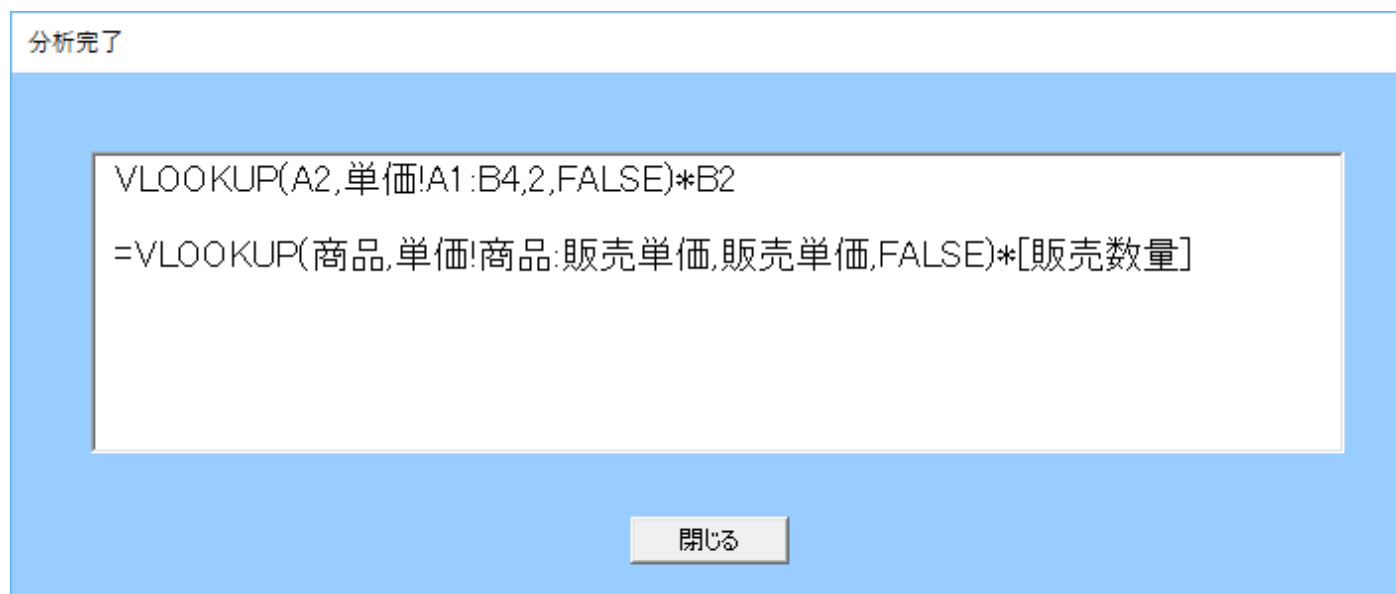
	A	B	C
1	商品	販売単価	
2	りんご	800	
3	みかん	200	
4	バナナ	1200	
5			

販売リスト 単価

上図の例では販売リストの表には行タイトルしか見当たらないので下図のように設定しました。

行タイトル:	1	行目 ~	1	行目
列タイトル:		列目 ~		列目

販売リストの C2 セルをクリックして「実行」ボタンをクリックすると下図のように表示されます。



上図のように VLOOKUP 関数では、第 1, 第 2, 第 3 引数について、該当する表の一番上の項目名を抽出して表示します。(第 3 引数も数字ではなく、抽出する項目名で表示します。)

この仕様により、対象の表にタイトルなどが無い場合は、最初の行のデータが表示されることがありますので、ご了承ください。

#### 【注意点及び免責事項について】

- ・簡易数式分析機能について、全ての数式の分析やセル番地から表タイトル名に置き換え時における完全な正確性を保証するものではありません。また串刺し加算や複雑な式の場合に分析できない(そのまま出力されたり、エラーとなる)可能性もあります。  
あくまで、補助機能としてご利用ください。
- ・#NAME?, #N/A 等、エラーや値がないセルなどは分析できません。あらかじめご了承ください。
- ・A1 セルのようにセル番地ではなく、A:A のような列名のみのは分析対象外となりそのまま出力されます。
- ・数式内のセル番地をタイトルに置き換えることができるのは、基本的に、その数式を含む同一シート内のセル番地に限られます(VLOOKUP 関数を除きます)。別シート及び別ファイルのセル番地などは非対応のため、そのままの形で出力されます。
- ・セル番地を表タイトルに置き換えられるのは、本資料の例題でご説明した、タイトルが上部及び左側にあるような標準的な単一の表に限られます。同一シートに複数の表が存在していたり、特殊な形の表の場合、分析結果は不正確なものとなる可能性があります。

簡易数式分析機能の操作手順は以上となります。

## 6. 「シート間 データ差し込み」機能の操作手順について

ある Excel シートがリスト形式のデータ(1 行ごとにまとめられた社員名簿や顧客管理表等)になっていてこのデータを別のフォーマット形式に 1 件ずつ転記したい場合、この「シート間 データ差し込み」機能を使うと便利です。最大 20 項目を転記できます。下記以降でこの機能についての操作方法をご説明します。

6-1. E-Speedy のメニューから下図の「シート間 データ差し込み」ボタンをクリックします。

シート間 データ差し込み

6-2. 画面を準備するため、下図のようなメッセージが表示されます。

※他の画面よりも少し起動に時間がかかります。ご了承ください。

Please wait...

画面の準備をしています。お待ちください。30% 完了

6-3. 画面の準備が完了すると、下図のような「シート間データ差し込み設定」の画面が表示されます。まず、下図の画面に各種設定を行っていきます。

シート間データ差し込み設定									
Excelのシート間でデータの差し込みを行います。									
【差し込み元データファイル名】		【開始シート名】		【終了シート名】		【データ開始行番号】		【最終行判定列】	
<input type="text"/>		<input type="text"/>		<input type="text"/>		<input type="text"/> 行目		<input type="text"/> 列目	
【差し込み先ファイル名】		【差し込み先シート名】		【ナンバリングセル】					
<input type="text"/>		<input type="text"/>		ファイル情報の更新			セル選択		
【差し込み元データ列】		【差し込み先のセル】		【差し込み元データ列】		【差し込み先のセル】			
1.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	11.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
2.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	12.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
3.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	13.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
4.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	14.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
5.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	15.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
6.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	16.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
7.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	17.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
8.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	18.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
9.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	19.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
10.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択	20.	<input type="text"/> 列目 →	<input type="text"/>	セル選択		
クリア 次へ 閉じる									

6-4. 簡単な例題としまして、下図のような部門ごとに管理されている「顧客管理表.xlsx」のファイルについて  
A部門とB部門の顧客情報の一部の列の情報を別のシートのお客様訪問用のテンプレートに  
赤色の矢印で示した対応付けで連続して転記することを考えてみます。

※事前に転記元となるリストデータのファイルと転記先のファイルを開いておいてください。

転記元と転記先が同じファイルで「あるシート」から「別のシート」へ転記ということも可能です。

※実際の運用では、手順 6-3.でご紹介した設定画面が大きいので、下図の転記したい列名(列番号)と  
その項目名(顧客コード等)をメモしておく設定がしやすいです。(シートが画面で隠れる可能性がある  
ためです。)

※転記元のデータはオートフィルタで絞り込まれていても考慮されませんのでご注意ください。

※転記先のセルは必要に応じて、事前にセルの書式設定をお願いいたします。

「顧客管理表.xlsx」のファイルの状態

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	顧客コード	氏名	性別	年齢	郵便番号	住所	電話番号
2	1	00001	新井 隆	男	30	140-****	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****
3	2	00010	小田 広子	女	23	260-****	千葉県千葉市△△町2-3	047-****-****
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	350-****	埼玉県川越市□□町5-6	049-****-****
5	4	00056	小島 洋子	女	34	220-****	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-****-****
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	300-****	茨城県牛久市△△町3-3	029-****-****
7								


「訪問用テンプレート.xlsx」のファイルの状態

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2									
3									
4									
5		顧客コード							
6		氏名							
7									
8		〒							
9		住所							
10		TEL							
11									
12									
13		ヒアリング内容							
14									
15									
16									
17									

6-5. まず、「シート間データ差し込み設定」画面の設定から行っていきます。

6-5-1. 最初に「差し込み元データファイル名」のプルダウンメニューから下図のように差し込み元のデータである「顧客管理表.xlsx」を選択します。

【差し込み元データファイル名】	【開始シート名】	【終了シート名】
顧客管理表.xlsx		

【注意点】もし、「差し込み元データファイル名」のプルダウンメニューに現在開いているブック名、もしくはファイル名が表示されない場合は、「ファイル情報の更新」ボタン  をクリックして再度ご確認ください。もし、それでも表示されない場合は、該当のブックが保存されていなければ一旦保存して閉じて頂き、そのファイルを E-Speedy のツールのウィンドウにドラッグして開き直してから「ファイル情報の更新」ボタンをクリックしてお試しください。

6-5-2. 次に、「開始シート名」と「終了シート名」の項目で、転記したいリストが存在するシートの範囲を設定します。今回の例では、A 部門～B 部門のシートを転記したいのでプルダウンメニューから下図のように設定しました。

※転記元のデータのシートが 1 つだけの場合は、例えば A 部門～A 部門のように同じシート名を設定してください。一方のシート名を省略するとエラーとなります。

※「開始シート名」と「終了シート名」には仕様上、非表示シートは表示されません。

【差し込み元データファイル名】	【開始シート名】	【終了シート名】
顧客管理表.xlsx	A部門	B部門

6-5-3. 続いて、「データ開始行番号」と「最終行判定列」を設定します。  
本例題では下図のように設定しました。

【データ開始行番号】	【最終行判定列】
2 行目	B 列目

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	No.	顧客コード	氏名	性別	年齢	郵便番号	住所	電話番号
2	1	00001	新井 隆	男	30	140-****	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****
3	2	00010	小田 広子	女	23	260-****	千葉県千葉市△△町2-3	047-****-****
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	350-****	埼玉県川越市□□町5-6	049-****-****
5	4	00056	小島 洋子	女	34	220-****	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-****-****
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	300-****	茨城県牛久市△△町3-3	029-****-****
7								
8								

「最終行判定列」は常にデータが存在する列を設定します。  
本例題では「B」列に設定します。

「データ開始行番号」はタイトルを除くデータの開始行番号を設定します。本例題では「2」行目となります。



### 【注意点】

前ページの「最終行判定列」で、例えば「No.」のような列はデータが存在しなくても先に連番のみ多めに振られることがあるため、「最終行判定列」に設定することはお勧めしません。

6-5-4. 次に「差し込み先ファイル名」のプルダウンメニューから下図のように差し込み元のデータである「訪問用テンプレート.xlsx」を選択します。

【差し込み先ファイル名】  
訪問用テンプレート.xlsx

【注意点】「差し込み先ファイル名」に現在開いているブック名やファイル名が表示されない場合は、本資料の手順 6-5-1 の【注意点】をご覧ください。

6-5-5. 続いて、「差し込み先シート名」を設定します。本資料の例題では、「訪問シート」が差し込み先なので、下図のように設定しました。

【差し込み先ファイル名】 訪問用テンプレート.xlsx

【差し込み先シート名】 訪問シート

6-5-6. 次に、下図の「差し込み元データ列」と「差し込み先のセル」の組み合わせを設定していきます。本例題では、手順 6-4.の差し込み元のシートの列番号と差し込み先のシートのセルを設定します。

【差し込み元データ列】 1. [ ] 列目 ➡

【差し込み先のセル】 [ ] セル選択

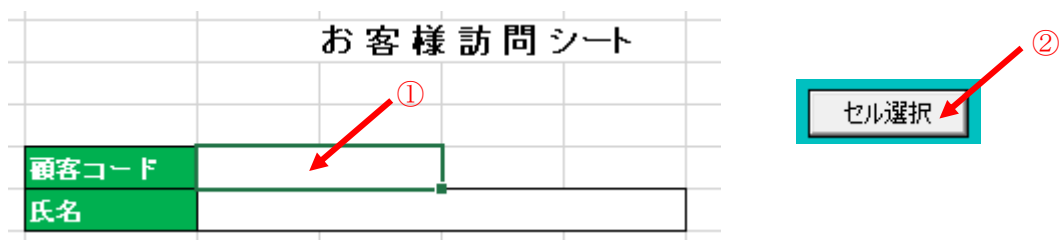
例えば、「顧客管理表.xlsx」ファイルの顧客コードは B 列で、この列のデータを「訪問用テンプレート.xlsx」ファイルの C5 セル(実際には D5 セルとセル結合されています)に転記しますので、下図のように設定します。

【差し込み元データ列】 1. B 列目 ➡

【差し込み先のセル】 \$C\$5:\$D\$5 セル選択

「差し込み元データ列」はプルダウンメニューから列名(もしくは列番号)を選択します。

「差し込み先のセル」は、下図のように転記先の「顧客コード」の空白セルをクリックしてから①「セル選択」ボタンをクリックします。②



### 【注意点】

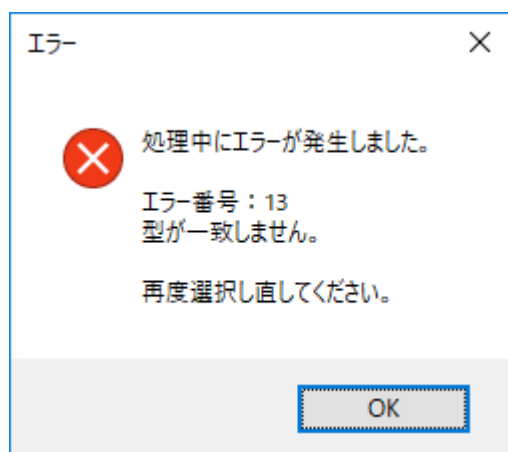
環境により、手順 6-5-6.でセル範囲を選択後、一旦「シート間データ差し込み設定」画面をクリック、続いて「セル選択」ボタンをクリックの順で操作を行うと、選択したセルが表示されない場合があります。この場合お手数ですが、**セル範囲を選択後、「シート間データ差し込み設定」画面に触れずに、直接、「セル選択」ボタンをクリックしてみてください。**(セルを選択後、直接、「セル選択」ボタンをクリックできるように画面やブックの配置を工夫してみてください。)

つづいて、他の項目も同様に下図のように設定しました。(6.番以降の設定は空欄のままです。)

【差し込み元データ列】		【差し込み先のセル】	
1.	B 列目 →	\$C\$5:\$D\$5	セル選択
2.	C 列目 →	\$C\$6:\$F\$6	セル選択
3.	F 列目 →	\$C\$8:\$D\$8	セル選択
4.	G 列目 →	\$C\$9:\$H\$9	セル選択
5.	H 列目 →	\$C\$10:\$E\$10	セル選択

### 【補足と注意点】

- ・上図の設定は、空いている箇所であれば、どこに設定しても問題ございません。  
また設定する順番などは関係なく、飛び飛びに設定しても問題なく動作いたします。  
但し、万一、複数個所で転記先のセル範囲が重複するような形で設定されていた場合は、設定 No.の大きい設定の方が反映される動きとなりますのでご注意ください。
  - ・差し込み先のセルには、Ctrl キーで複数選択したようなセル範囲は設定できません。
  - ・「セル選択」ボタンをもう一度クリックすると差し込み先セルをクリアできます。
- 環境やタイミングにより下図のようなメッセージが出ることがありますが問題ございません。



- ・「差し込み先のセル」(転記先)のセルについて、事前に書式設定をお願いいたします。  
本ツールのデータ転記はあくまで値のみのため、例えば「00001」という顧客コードが書式設定されていないセルに転記されると「1」という数字になってしまいます。

6-5-7. 下図の「ナンバリングセル」は、本例題では省略しておりますが、例えば、  
 転記元のデータについて、転記先のシートにナンバリングをしたい場合などに設定します。  
 最初のデータを1番として10桁の数字で番号が振られます。ファイルの印刷や出力の際に  
 通し番号を振りたい場合にご利用ください。

【ナンバリングセル】

セル選択

6-6. 本例題では下図のように設定できました。準備ができましたら、「次へ」ボタンをクリックします。

シート間データ差し込み設定

Excelのシート間でデータの差し込みを行います。

【差し込み元データファイル名】

顧客管理表.xlsx

【開始シート名】

A部門

【終了シート名】

B部門

【データ開始行番号】

2

行目

【最終行判定列】

B

列目

【差し込み先ファイル名】

訪問用テンプレート.xlsx

【差し込み先シート名】

訪問シート

ファイル情報の更新

【ナンバリングセル】

セル選択

【差し込み元データ列】

1.

B

列目

➡

【差し込み先のセル】

\$\$5:\$D\$5

セル選択

11.

列目

➡

セル選択

2.

C

列目

➡

\$\$6:\$F\$6

セル選択

12.

列目

➡

セル選択

3.

F

列目

➡

\$\$8:\$D\$8

セル選択

13.

列目

➡

セル選択

4.

G

列目

➡

\$\$9:\$H\$9

セル選択

14.

列目

➡

セル選択

5.

H

列目

➡

\$\$10:\$E\$10

セル選択

15.

列目

➡

セル選択

6.

列目

➡

セル選択

16.

列目

➡

セル選択

7.

列目

➡

セル選択

17.

列目

➡

セル選択

8.

列目

➡

セル選択

18.

列目

➡

セル選択

9.

列目

➡

セル選択

19.

列目

➡

セル選択

10.

列目

➡

セル選択

20.

列目

➡

セル選択

クリア

次へ

閉じる

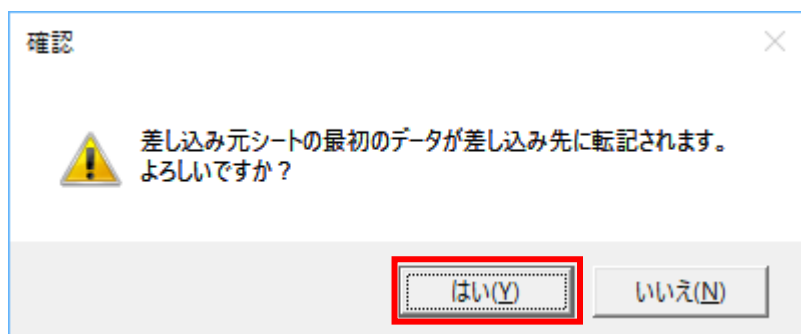
【補足】 上図の画面の「クリア」ボタンをクリックすると、画面上の設定がクリアされ、  
 設定をやり直すことが可能です。

【注意点】 操作途中で差し込み元や差し込み先のシート構成が変わった場合は、必ず「ファイル情報の更新」  
 ボタンをクリックして設定をやり直してください。

6-7. 上図で「次へ」ボタンをクリックすると下図の画面が表示されます。

これは、差し込み先シートに値が転記されるので注意を促すメッセージです。

問題なければ「はい」をクリックします。

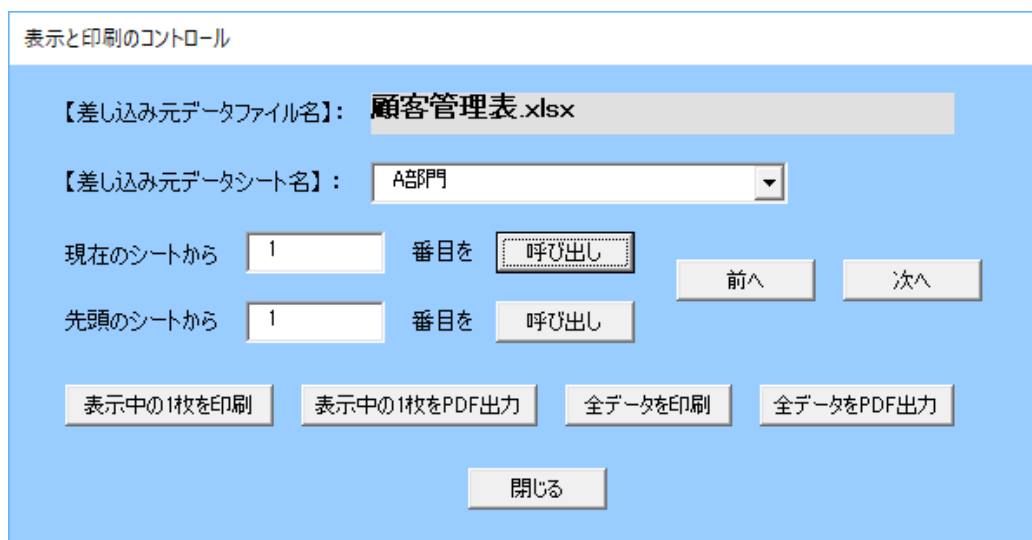


【注意点】

差し込み先のシートにシートの保護がかかっている場合は、エラーとなりますのでご注意ください。

またその場合は、シートの保護等を見直しを行ってから再度実行してください。

6-8-1. 「シート間データ差し込み設定」で「次へ」ボタンをクリックすると下図のように「表示と印刷のコントロール」画面が表示されます。



次のページに続きます.....

6-8-2. また、差し込み先のシートでは、下図のように差し込み元のデータの A 支店の最初のデータが転記されていることがわかります。

※実際の運用では、「シート間データ差し込み設定」画面で設定した全ての項目が差し込み先シートの転記先のセルに正しく反映されているかご確認ください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2			お客様訪問シート						
3									
4									
5		顧客コード	00001						
6		氏名	新井 隆						
7									
8		〒	140-****						
9		住所	東京都品川区〇〇町1-1						
10		TEL	03-****-****						
11									
12									
13		ヒアリング内容							
14									
15									
16									
17									

訪問シート

【補足】これ以降の操作では、「表示と印刷のコントロール」画面と差し込み先シートを画面の見やすい位置に配置すると作業がしやすくなります。

## 6-9. 「表示と印刷のコントロール」画面の操作方法について

表示と印刷のコントロール

【差し込み元データファイル名】: 顧客管理表.xlsx

【差し込み元データシート名】: A部門

現在のシートから 1 番目を 呼び出し 前へ 次へ

先頭のシートから 1 番目を 呼び出し

表示中の1枚を印刷 表示中の1枚をPDF出力 全データを印刷 全データをPDF出力

閉じる

この「表示と印刷のコントロール」画面を使って差し込み元のデータを差し込み先シートに素早く転記したり、連続してPDFに出力、通常使うプリンタに出力することが可能です。下記以降のご説明を参考にしながら、ご利用ください。

### ・差し込み元データファイル名：

差し込み元のデータのファイル名が表示されます。

### ・差し込み元データシート名：

「表示と印刷のコントロール」画面の表示直後は、差し込み元のファイルの「開始シート名」が表示されます。この項目はプルダウンメニューで変更できるようになっています。例えば現在表示されているシートとは別のシートを選択した場合、その選択したシートの最初のデータが差し込み先のシートに転記されます。但し、元々表示されていたシート名を再度選択しなおした場合は何も起こりません。あくまであるシートから別のシートに変更した場合の動きであることにご注意ください。

### ・現在のシートから〇〇番目を「呼び出し」

この機能は、「差し込み元データシート名」に表示されているシートの先頭のデータを1番目として任意の位置のデータを差し込み先シートに転記したい場合に利用します。表示したい位置のデータの番号を入力して（※）「呼び出し」ボタンをクリックします。

※番号を入力しただけでは転記されません。「呼び出し」ボタンをクリックして初めて転記されます。

### ・先頭のシートから〇〇番目を「呼び出し」

この機能は、差し込み元データファイルの先頭のデータを1番目として任意の位置のデータを差し込み先シートに転記したい場合に利用します。表示したい位置のデータの番号を入力して（※）「呼び出し」ボタンをクリックします。

※番号を入力しただけでは転記されません。「呼び出し」ボタンをクリックして初めて転記されます。

次ページにつづきます.....

#### ・「前へ」ボタン

現在、表示対象となっている差し込み元のデータの1つ前のデータを差し込み先のシートに転記します。

#### ・「次へ」ボタン

現在、表示対象となっている差し込み元のデータの1つ次のデータを差し込み先のシートに転記します。

#### ・「表示中の1枚を印刷」ボタン

現在、差し込み先のシートに表示されている内容で差し込み先のシートを通常使うプリンタへ出力します。

#### ・「表示中の1枚をPDF出力」ボタン

現在、差し込み先のシートに表示されている内容で差し込み先のシートをPDF形式で出力します。

#### ・「全データを印刷」ボタン

差し込み元データファイルの「開始シート名」から「終了シート名」までの全てのデータを差し込み先のシートに1件ずつ転記しながら、差し込み先のシートを通常使うプリンタへ出力します。

#### ・「全データをPDF出力」ボタン

差し込み元データファイルの「開始シート名」から「終了シート名」までの全てのデータを差し込み先のシートに1件ずつ転記しながら、差し込み先のシートをPDF形式で出力します。

ここでは、いくつかの操作例を見ていきたいと思います。

例えば、本例題の「顧客管理表.xlsx」において、A支店とB支店のデータは下図のようになっています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	No.	顧客コード	氏名	性別	年齢	郵便番号	住所	電話番号	
2	1	00001	新井 隆	男	30	140-****	東京都品川区〇〇町1-1	03-****-****	
3	2	00010	小田 広子	女	23	260-****	千葉県千葉市△△町2-3	047-***-****	
4	3	00033	加藤 秀幸	男	56	350-****	埼玉県川越市□□町5-6	049-***-****	
5	4	00056	小島 洋子	女	34	220-****	神奈川県横浜市〇〇町2-1	045-***-****	
6	5	00101	佐藤 雄二	男	22	300-****	茨城県牛久市△△町3-3	029-***-****	
7									

A支店

B支店

+

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	No.	顧客コード	氏名	性別	年齢	郵便番号	住所	電話番号	
2	1	00003	清水 博之	男	44	210-****	神奈川県川崎市〇〇町7-3	042-***-****	
3	2	00007	須田 雅子	女	30	359-****	埼玉県所沢市△△町4-4	04-****-****	
4	3	00040	田島 昭雄	男	25	270-****	千葉県柏市□□町5-1	04-****-****	
5	4	00071	仁村 香	女	37	321-****	栃木県今市市〇〇町6-4	0288-**-****	
6	5	00201	矢島 勉	男	52	370-****	群馬県前橋市△△町9-5	027-***-****	
7									

A支店

B支店

+

「表示と印刷のコントロール」画面は、本例題の場合、初期状態では下図のようになっています。

表示と印刷のコントロール

【差し込み元データファイル名】: 顧客管理表.xlsx

【差し込み元データシート名】: A部門

現在のシートから 1 番目を 呼び出し 前へ 次へ

先頭のシートから 1 番目を 呼び出し

表示中の1枚を印刷 表示中の1枚をPDF出力 全データを印刷 全データをPDF出力

閉じる

### 【例題その1】

上図の状態から下図のように先頭のシートからの部分の数字を「6」に変更して「呼び出し」をクリックしてみます。

先頭のシートから 6 番目を 呼び出し

ここで前ページのA支店を確認するとA支店のデータは5件しかありませんので先頭から6番目のデータは、B支店の最初のデータであることがわかります。

実際に「呼び出し」ボタンをクリックすると、下図のようにB支店の最初のデータが転記されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2									
3									
4									
5		顧客コード	00003						
6		氏名	清水 博之						
7									
8		〒	210-****						
9		住所	神奈川県川崎市〇〇町7-3						
10		TEL	042-***-****						
11									
12									
13									
14									

お客様訪問シート

ヒアリング内容

訪問シート



## 【例題その2】

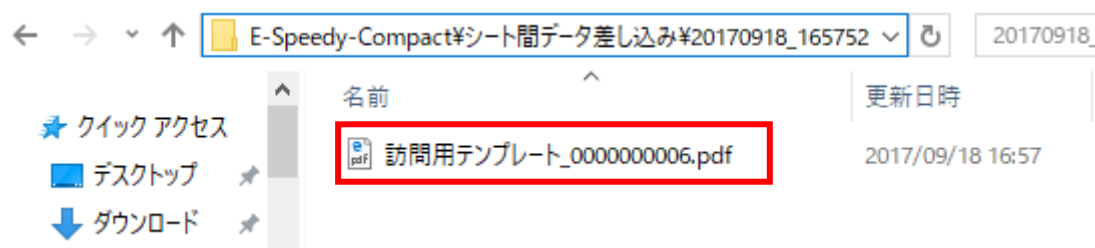
例題その1の後で、「表示と印刷のコントロール」の画面から「表示中の1枚をPDF出力」ボタンをクリックしてみます。すると、画面上に下図のようにPDFファイルが表示されます。

お客様訪問シート

顧客コード	00003
氏名	清水 博之
〒	210-****
住所	神奈川県川崎市〇〇町7-3
TEL	042-***-****

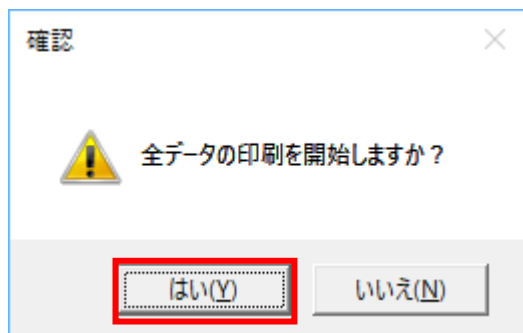
ヒアリング内容	

また、下図のように「ツールフォルダ / シート間データ差し込み / 本日の日付\_時刻」というフォルダが作成され、その中に「差し込み先ファイル名(拡張子なし)\_先頭からのデータの位置(10桁).pdf」というファイル名で保存されています。これは「全データをPDF出力」ボタンをクリックした際も同様となります。



### 【例題その3】

つづいて、「表示と印刷のコントロール」画面から「**全データを印刷**」ボタンをクリックしてみます。  
この操作により差し込み元ファイルの開始シートから終了シートまでの全データがプリンタへ出力されます。  
すると、下図のような画面が表示されますので、準備ができましたら「はい」をクリックします。



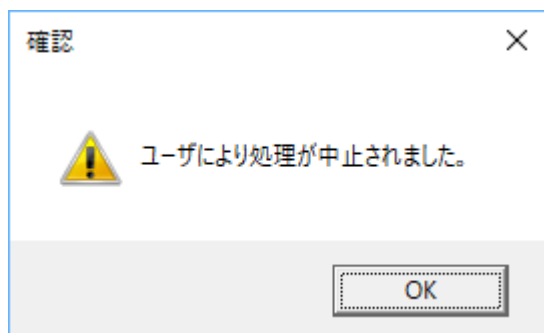
下図のような進捗状況が表示されます。

もし途中でプリンタへの出力を中止したい場合は「ESC」キーを押し続けてください。

進捗状況（ESCキーで中止できます。）



※印刷途中で ESC キーを押した場合は、下図のような画面が表示されます。タイミングにより表示されなかったり、別のメッセージが表示されることもあります問題ございません。



次ページにつづきます....

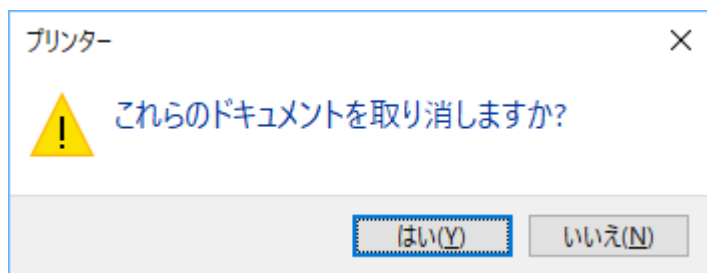
## 【全データを印刷時の注意点】

「全データを印刷」を実行した後で、事情により印刷を中止したい場合は、前ページでのご説明の通り、ESC キーでプログラムの実行を停止した上で下記の操作を行ってください。

- ①管理者の方にご確認の上、通常使うプリンタの電源を **OFF** にできれば **OFF** にしてください。
- ②下図のように、[デバイスとプリンター]から通常使うプリンターのキューを開いて、印刷を中止するファイルを選択して、「右クリック」→「キャンセル」の順にクリックします。



下図のメッセージが表示されましたら「はい」をクリックします。

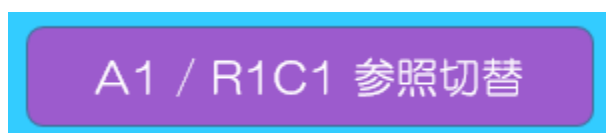


- ③ プリンタの電源を再度 **ON** にして、プリンタ側に残っている印刷を中止したいファイルの印刷予定のキューがあれば削除してください。

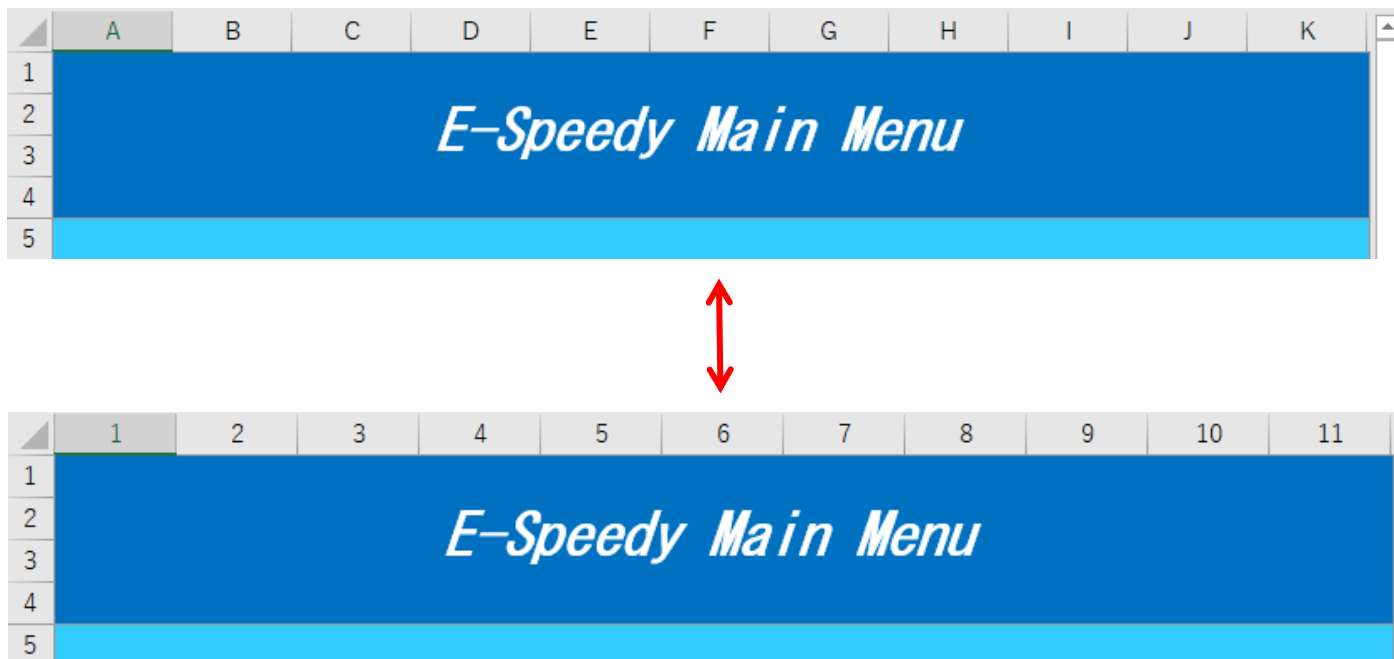
シート間 データ差し込みの操作手順は以上となります。

## 7. 「A1 / R1C1 参照切替」機能の操作手順について

現在のセル番地の参照表示を相互に切り替えたい場合に下図の「A1 / R1C1 参照切替」ボタンをクリックします。



上図のボタンをクリックするたびに、下図の列方向の表示が A1 ⇔ R1C1 参照形式の間で交互に切り替わります。お好みの環境に切り替えてご利用ください。  
またこれに伴い、各操作画面上の表示や列名、列番号等も切り替わります。



A1 / R1C1 参照切替の操作手順は以上となります。

## 8. 本マクロに関するご意見や不具合のご連絡先について

本マクロに関するご意見や不具合については、下記のメールアドレスまでお願い致します。

担当: Hide

E-mail: info@benri-tool.com

※ご返信までにお時間を頂くことがあります。また内容によりましてはご返信できかねる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

## 9. 修正及び更新履歴

- ・ Ver 1.00 初期バージョン公開
- ・ Ver 1.01 シートの統合処理画面の表記に抜けがありましたので修正しました。  
誤:「再表示不可の非表示をコピーする」→ 正:「再表示不可の非表示シートをコピーする」  
この修正に伴いマニュアルの画像の修正と一部マニュアルをわかりやすく修正しました。

## 10. 本資料に関するご注意事項について

- ・ 本資料内に掲載している例題等のデータは全て架空のものです。
- ・ Microsoft Word , Microsoft Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ 記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。
- ・ 本資料のデータについて、社内の業務等での使用に限り、その印刷、複製、配布を許可致します。それ以外の目的の場合は、著作権者に許諾なく、本資料の複製、転載、サイトへの掲載等を禁じます。